青鞜

6

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜　六月號內容

暮春……(短歌)……一……岡本かの

囚はれ人……(短歌)……五……三ケ島葭

泣かさるゝ引眉……(短歌)……一三……柴田かよ

イワノフ……(脚本)……一九……チエホフ作　瀬沼夏葉譯

響の影……(小說)……三六……マツコア　伊藤野枝譯

戀愛と結婚……(論文)……八三……エレン、ケイ　らいてう譯

未來の王國……(小說)……九四……アナトール、フランス　淺野友譯

新らしき幸ある國へ(小說)……一〇九……シエンキウツチ　增田初譯

扃ある窓にて……(感想)……一一六……らいてう

編輯室より……一二四……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

暮春

—岡本かの—

黒ぬりのかろき木履のひびきにもほろほろと
散る山吹の花

晴やかにもの云ふ胸のいづこにかしくしくと
しも泣けるかなしみ

ともすれば空どけのする黒襦子の帶もどかし
やみごもれる春

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なやましくうらはづかしくなつかしくみごもれる身に若葉かほりぬ

みごもれる身はやるせなや卓などに倚りて男をおとなしく待つ

ほろ〳〵と山吹の散る春のくれそむける男ふとかへり來ぬ

かい撫でゝ我さへはやもさしごみぬまことわりなき汝が弱さかな

しとしとと雨も降り來し春の夜をいかにさとしてかへしやらまし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふたつみつ言ひ交しては故もなく涙ぐむ眼を
山吹にやる

眞白なる素足の爪に血のすこしにじむも知ら
で語り來しかな

何事も云はでさしぐむ君と我が幾まがりせし
からたちの垣

開かれし窓いたづらに明るくて君無き部屋に
來てひとり泣く

はしたなしと叱りたまはゞいかにせん待ちつ
かれたる後のうたゝね

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やるせなき暮春のうれひゆきずりの男にもふ
と甘へて見度や

ひなげしも我が黒かみも燃えさかる初夏の日
となりにけるかな

後れ毛の去年より増せし生際もなつかし夏の
そよ風ふけば

しのびかに我をしたへる瞳のごとき灯をば見
出でぬ若葉の奥に

別れましこのやるせなき心もて灯明き部屋に
など入るを得む

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

囚はれ人　—三ケ島葭—

肌寒き風にひとへの花ちりぬことしの春もこれに終るか

夜も晝も暗き心をはなれえぬ囚はれ人も花散れば泣く

暗に咲く花とほのかに薫けば人待つ胸に鳴りし血の燃ゆ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しのびいでし春の月夜のおもひより花にうつりて戀の止みにし

春の夜を花にゆく身のたよりなささびしくまもる父母もがな

わが上の暗にぬれたる花の色動かばあはれあかつきの來む

怖るるにたがひぬ春のあかつきも夢の夢見る我と思へば

わが身かと夢にゑまひしかがやきを花に見よとて夜は明けにけむ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ああ一つ我の心を引きし花そはまぼろしの花
なりしかな
はてしなくゆらめくものと思ひしは君にとざ
まる心なりけり
何にてもあらじと言ひしいささかのことにも
小さき心は狂ふ
亂さるる心は悲しなつかしき人の前にも恨の
み言ふ
はかなしとさだまれる身になほあるはうれし
や夢の悶なるらむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らでけふもわれ泣く

まこと戀に泣きておのれを新しくするにもあ
ひてけふもためらふ

如何せばこれにまさらむおのれはや還して言
も恥の身なれは

願はくは戀ひたる罪を名に賜へ生くるも死ぬ
夫の世は來む

戀をわが世ともなしうる少女子となりて必ず
なるへき戀を

わがなせは罪となるかなよき人のなせは數て

まもらるるそのかたへよりくづれゆくやるせ
なさにぞ君に傾く

戀なるも戀ならざるも君無くばまことに死な
む我としぞ思ふ

君無くてあらむ我とは思はねどあらむ我こそ
おぼつかなけれ

世に永く敗れし身にはかりそめの人の心も沁
みてうれしき

罪としてやがてさやかにあらはれむわがこの
頃の戀にをののく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀ありて生あり死ありなど惑ふ身は生死のさかひにぞ泣く

裏切る日あらむのがれて死なむなどきのふもけふも同じこと言ふ

新らしくわが知るものはみな悲し君見て泣くもこれがためかも

ああわれは言ふにも足らぬかなしみをおぼえこの世のたのしみ忘る

戯れと思はれがたき悲しかる性もて君を打たむさぞせし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

逢はむとも願はずなりぬ逢ひがたき身の悲みはいまだ盡きねど

わが如き寂しき女如何ばかり君を戀ふとも事は無からむ

聞きえねば君が何故捨てしかも知らずてありぬ幸ひなるかな

君に盡き君に失ふもの無くばわが世やいかにあぢきなからむ

さびしさに墟へむともせず身も魂もここに消えよと思ひ入るかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

堪へがたきうらはかなさを覺えしもわがあめ
つちのめぐみなるらむ
かなしみをもて男より追らるる身さもなりな
ば足らひて死なむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

泣かさるゝ引眉 ―柴田かよ―

――或女に――

親にそむき
女優となれる意地ばりの
友に逢ふとてカフエーに來ぬ

過ふ日までは
たゞ見てあれとのみ言ひし
別れの際を思ひつゝ待つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つどよりて
手と手はかたく握りしが
何も得言はずお互に泣く

『よくもまあ
この年月を忘れずに
遇ひに來しよ』と言ひあいて泣く

わが質素（じみ）な
みなりがさまで君が眼に
羨ましきやいたましいたまし

君はわが
丸髷を見て泣きくづる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『兒あり』と言へばまた泣き崩る
さは泣きそ
勝氣な君がそのやうに
泣き崩るゝを見て居らるゝや

何をさは僻める
我れの眼に光る
泪を見たる後にもの言へ

どのやうに
辛(つら)き世過(よすぎ)をして來しか
そのやつれたる顏がもの言ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

これほどに
苦が多いとは知らざりき
女優といふも辛きものかな

その指環も
その帯止めの寶玉も
汝の泪の固りなるべし

勝氣とは言へ
あれほどの肺病で
夜々の舞臺が踏まるゝ事かな

われにまで
意地は張らずもよかるべし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あの人のことなど言い出さぬ
されどされど
訊かれぬが猶辛か
あの人は今戀ひ妻と在り

『まだ何か
言ひたいやうで言はれぬ』と
捩かしがるを見て居る辛さ

『何故死ねぬ
嫁かれぬほどの病身で
何日まで生きてあるか』とて泣く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひき眉が
何故か我れをば泣かしむる
またの逢ふ日は描かずもあれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲 イワノフ（四幕もの）――チエホフ作――

人名

イワノフ、ニコライ●アレクセエキチ、農民役所の常置員。

アンナ●ペトロウナ、其の妻、初の名はサラ●アブラムソン。

伯爵シヤベリスキイ、マトウエイ●セミヨノキチ、イワノフの母方の叔父。

レベデフ、パウエル●キクルキチ、村會議長。

ジナイダ●サキシナ、其の妻。

サーシヤ、其娘、二十歳。

リヲフ、エヴゲニイ●コンスタンチノキチ、村の若い醫者。

ババキナ、マルフア●エゴロウナ、大地主の若寡婦、豪商の娘。

コスイフ、デミトリイ●ニキチチ、税務署官吏。

ボルキン、ミハイル●ミハイロキチ、イワノフの遠い親戚、彼が所有地の支配人。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

アウドチヤ・ナザロウナ、定まつた職業の無い老婆。
エゴルシカ、レベデフ家の食客。
第一の客。
第二の客。
第三の客。
第四の客。
ペートル、イワノフ家の給仕。
ガウリラ、レベデフ家の給仕。
其他、男女の客と下男共。

場所

中部露西亞のさる一郡に於て。

第一幕

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ家の庭園、左手にはエランダの附いた家の正面を見せ、一つの窓は明いてゐる。エランダの前は廣い半圓形の空地、其處から庭の眞直と、右とに並木道がつゞいてゐる。右手には庭の長い腰掛や、卓子（テーブル）が据えられて、一番後のテーブルの上にランプが點つてゐる、日は殆ど暮れた。幕が上がる時、家の中から大洋琴（ロヤリ）とセロとの二部合奏を練習してゐる音が聞える。

第一齣

イワノフ。ボルキン。

イワノフはテーブルの前に腰を掛けて、書物を讀んでゐる、庭園の奥深くから、微酔のボルキンが長靴を穿いて、銃を持つて現はれる。彼はイワノフを見るより、足を爪立てゝ、そつと其側に近づき、彼と並んで、行成彼の顏に銃を差向けて覘ふ。

イワノフ。（ボルキンを見、顫えて飛上る）ミーシャ、何をするのか…………君は僕を驚かしたのだね…………さうでなくても心持がむしやくしやしてゐるのに、まだ其上に這麼（こんな）君の馬鹿な惡戯（いたづら）だ…………（腰を掛る。）人を驚愕（びつくり）さして、さうして喜んでゐる…………

ボルキン。（カラ〳〵と笑ふ。）いやどうも…………失敬々々！（並んで腰を掛る。）もう〳〵決してこれからは致しません…………（丸帽を脱ぐ。）暑い。ねえ君、まあ聞いて下さい、今日は三時間ばかりの間に、十七露里と云ふものを駈け廻りましたんですぜ…………酷い目に逢つちやつた…………まあ、これ、僕の胸を觸つて見て下さい、この動悸を…………

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ。（讀みながら。）まあ後で………

ボルキン。いや、今觸つて見て下さい、そら（彼の手を取つて自分の胸に當てる。）聞えるでせう？ドキ〳〵〳〵ッて！　どうも僕は心臟病に違いないよ、これぢや何時突然に死ぬか解らん。ねえ、聞いて下さい君、若しかね、僕がその死んだらだ、君は殘念がつて呉れますか。あ？

イワノフ。僕は讀んでゐるのだから………後に爲給へ………

ボルキン。いや、冗談でなくです、若し急に僕が死んだら、君は殘念がつてくれますか、え、ニコライ・アレクセエヰチ、君には悲しかありませんか、その僕が急に死んでも、え？

イワノフ。え〻、執拗（しつこ）いよ！

ボルキン。ねえ君、どうか聞かして下さい、殘念ぢやありませんか、え〻？

イワノフ。僕には殘念だよ、君がその、さう酒臭いのがだ、ミーシさ、堪らなく厭だ。

ボルキン。（笑ふ。）臭いかね？　こりや驚いたなあ………いや然し、別に驚くことはないのだ。實はプレスニキでね、ある檢事に逢つたのだがね、白狀をすればだ、其奴と一所に八つ計りを引掛けたのさ。まあ、一體酒と云ふものは甚だ毒なのだね。え〻さうでせう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な？　それとも毒ぢやないと有仰いますか、あ？　毒なんですか？

イワノフ。堪らない、始末にならん……考へて見なさい、ミーシャ……　そりや人を愚弄するといふもんだ。

ボルキン。いや、どうも失敬々々！……どうぞまあ其れぢや御自由においで下さい。（立上つて行く。）驚いッちまはあ、ふん、話をすることも出來ないんだから。（また引返して來て。）うむ、さうだ！　危く忘れる所だつた……え、、八十二圓頂きたいんですがな！……

イワノフ。何の八十二圓？

ボルキン。明日勞働者に拂はなければならんのです。

イワノフ。僕のところにや錢がないんだ。

ボルキン。其りや大きに有難う！（口眞似をする。）『僕の所にや錢がないんだ。』……だが勞働者に拂はなければなりますまい？　拂つて遣らなけりやならんのでせうがな？

イワノフ。僕あ奈何だか知らないよ、左に右今日は些とも錢が無いんだ、朔日に月給を取るまで待つて貰ひたい。

ボルキン。はてな、いや、だが其りやさうは行きませんよ、朔日に錢を拂ふつたつて、彼等は明朝ちやんと取りに遣つて來ますぞ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ。だからつて、今、僕も奈何しやうもないぢやないか、裂くとも、挽くとも、粉砕するとも勝手にしてくれ給へ……さうして君は惡い癖がある、何時でも人が讀んでるとか、書いてるとか、さう云ふ生憎な時に限つて、煩さく絡まるのが好きだ……

ボルキン。僕は君にたゞ聞いてゐるんです、勞働者に拂はなけりやならないんか、或は又奈何なのかつてね……え丶、話しても無駄だ！……（手を振る。）大地主も糞もあるものか、地主だなんて……合理的の農業か……千「デシャチナ」の土地はあつても、懐中にや鐚一文なし……酒倉はあつても栓拔がないつてィ奴だ……それぢや明日三頭馬車を賣拂つて了ひませう！　奈何です！……どうせ燕麥もまだ畠にあるまゝで拂つて了つたんだから、序に又明日黑麥も賣つて了ひませうよ。（足早に舞臺を歩く。）君は僕が遠慮でもすると思つてゐましたか？　へえ？　なか〳〵奈何して、那様のぢやないのですから……

第二齣

シャベリスキイ伯。（舞臺の蔭で。）アンナ・ペトロウナ。以下同前。

シャベリスキイ伯の撃鉄より洩れ聞り「貴方さ弾くんぢや到底出来やうはありやしない……貴方の耶蘇の悪いさ云つたら、腹詰の焼魚の料理より始末にならんわ、さうして迅速に音が起るところなごゝ来たら、もう堪りやしない。」

アンナ●ペトロウナ。（開けてある窓から顔を出して。）誰が今、其處で話をしてゐらしつたの？ あゝミーシャ、貴方なの？ まあ、何を那樣にやけに歩いてゐらつしやるの？

ボルキン。貴方のニコライ君と話をするにや、實際もつと酷くでも歩いてやりたくなりますあね。

アンナ●ペトロウナ。ねえミーシャ、些と聞いて頂戴、あのクリケットの運動場にね、枯草を敷いて置いて下さいな。

ボルキン。（手を上げて振る。）まあ御勘辨を願ひます………

アンナ●ペトロウナ。おや、どう遊して、そのものゝ有仰りやうは………貴方にお似合でないわ。ねえ、些と貴方、若しね、女から好かれやうと思ふ時にはね、もう女の前ぢや決して那樣怒つたお顔したり、威張つた眼色をなさるものぢやありませんよ、ね………（夫に。）よう、ニコライ、枯草の上に寢ころびませんか！………

イワノフ。アニウタ、お前毒だよ、その開放しの窓先に立つのは、彼處へお行よ、なあ、

頼むから……(叫ぶ。)叔父さん窓を閉めて下さい。(窓が閉る。)

ボルキン。それから忘れないで下さい、もう二日經つとレベデフの許へ利子を拂はなければなりませんぜ。

イワノフ。忘れやしない、今日僕はレベデフの許へ行くから、もう少し猶豫をしてくれるやうに頼まう……(時計を見る。)

ボルキン。何時お出でゞす?

イワノフ。今すぐに。

ボルキン。や、待ち給へ、待ち給へ……はゝあ、今日は何だね、そのシウロチカの誕生日だね……ほう、ほう、ほう、ほうだ!……うむ、僕あすつかり忘れてゐた……どうも忘れつぽうで困る。(飛上る。)行かう、行かう……(歌ふ。)行かう……どれ水でも浴びて、さうして紙でも嚙つてアンモニヤの三滴もたらして飲んで遣らうか、さうすりやもう大丈夫さ、もう一度酒を飲み直したつても大丈夫だ……ねえ、おいよ君、あ、ニコライ・アレクセエキチ、なあ君、このエンゼル、どうも君は始終さう神經的で、又ものを悲觀的にばかり見てゐていかんよ、何時だつて君は惡い氣分でゐない時はないんだが、奈何です君、一つ何か君と一所に遣つたら、素晴らしい仕事が乾度成功するだらう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と僕思ふがね!……君の爲なら僕何んでも遣りますぞ………いや若しも君が望みとあればだ、あのマルフーシカ●ババキナと結婚をでもして見せます、奈何ですね?で、あれの持參金の半分は君に差上やう………いやさ、半分どころぢやない、皆持つて行つても構はん!

イワノフ。可加減にし給へ、馬鹿々々しい………

ボルキン。いや君眞面目な話だ!若しお望みなら、僕あマルフーシカを妻に持つとも、あ?さうして持參金は君と山分け………だが、一體僕あ何の爲に這麼ことを君に云ふのか?(口眞似をする。)『可加減にし給へ、馬鹿々々しい。』だなんて。君は其の、全く立派な人間で、利口な人だがね、どうも君にやその器量がないんだ、考の廣さが足らんと云ふものさ。何かなあ一つ、慫う、惡魔でも嘔吐を吐かされちまうやうな振つたことを遣つて見たいものさ………君がだね那樣病的の泣虫でなく、通例な人間であつたら、一年經ちやもう百萬圓の身代にもなれるのだがなあ、まあ、例へばね、今僕の所に二千三百圓あるとしたら、僕あ二週間經つて、其れを二萬圓にして見せる。屹度さ、君、信じないですか?馬鹿々々しいことどころぢやありませんぜ……まあ、それぢや僕に二千三百圓與へて見給へ、僕あ屹度二週間を經て立派に君の目の前に二萬圓を揃えてお目に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

掛けやう。そら、あのアフシャノフがですな、河に沿ふた一帯の土地を賣るつてえんです、所が其の地所がだ、丁度河を隔てゝ我々の地所と眞向ひぢやありませんか、で、若し兩方の沿岸が我々のものとなつたら、さあ、其處だ。君解りますか？ 我々は河を堰塞める權利があると云ふものです、さうぢやありませんか？ それでだ、我々はまづ水車を此處に拵らへると云ふことにしてね、假りにそれを廣告すると思ひ給へ、詰り此處へ其の譯で河の水を堰塞めるつてね。さあ、さうしたら大變だらう、この河下にゐるものどもが大騷ぎを持上げるだらう、さてこそ占めたりだ、さあ〳〵お出でなさい、どうぞ此方へ、と來るんだ、はい、水を堰塞めちやお困りと云ふことなら、さあ、何とかこゝに色をお附けなさい。と、まあざつと這般ものさ。解りましたか？ ザレフスクの製造場でまあ默つて五千圓でせう。コロリコフの所で三千圓は大丈夫、修道院でまた五千圓………

イワノフ。ミーシャ、皆そりや君の例の手品だ……… 若し君は僕と爭論を初めたくないんなら、まあ那樣ことは藏つて置き給へ。

ボルキン。（椅子に腰を掛る。）勿論だ………僕あさうくるだらうとは知つてゐたのさ………自分で何んにも爲ないでゐて、さうして僕までも縛つてゐるんだ………

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第三齣

シヤベリスキイ伯、とリヲフ登場。以下同前

シヤベリスキイ伯。（リヲフと一所に家から出て來ながら。）醫者と辯護士と唯この違があるばかりさ、辯護士は金を取るばかりが能で、醫者は金も取る、其上に殺しもする……だがね、俺は此處にゐる人のことを云ふのぢやないんだ。（長い腰掛に掛る。）拐騙、强欲、非道………或はアルカヂヤなんぞの所の、多勢の中には、ひよつとして例外なのもあるかも知れんがね、然し……俺なんぞが見る鏡、是迄と云ふもの、治療々々でもう二萬圓も費つてゐるが、それでもさ、つひ俺の眼に、其醫者どもが全く唯の一人だつて、立派な專賣特許の盜人に見えない奴等はなかつたんだ。

ボルキン。（イワノフに。）さうさ、自分ぢや何にも爲やしないでゐて、其上僕までを縛るんだ、那樣譯から我々の所には錢が無いんだ……

シヤベリスキイ伯。猶又云ふがね、俺は何も此處にゐる人達のことを云ふんぢやないのだ……だが、或はひよつと例外なのもあるかも知れないがね、たとへ然し……（欠伸する。）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ。（書物を閉ぢて。）奈何ですか？　ドクトル、御意見をお聞かせ下さい。

リヲフ。（窓を顧みて。）矢張今朝程申上げたやうな御容體ですから、まあ、奥様は成べく早く、クルイムに轉地なさらなけりや可かんでせう。（舞臺を歩いてゐる。）

シャベリスキイ伯。（吹出して。）クルイムにね！………何のこつたい、え丶、ミーシャ？　それぢや療治なんざあ我々にだつて出來るんだ、譯きあない………何か其のマダム、アンゴだとか、オフエリヤだとかゝだね、寂しまぎれに胸が支へても、咳を一つしても、さあ、もう直ぐそれ、紙を取り上げて科學上の法則に從つて書きなさいだ。即ち必要なのが最初にや若い醫者、次にクルイムに轉地、次にクルイムには韃靼人の案内者だらう。（クルイムには年若く容貌の秀れた韃靼人の案内者等が多い）………

イワノフ。（伯爵に。）あ丶煩いよ、さうぐずぐず嘮されて計りゐちや遣り切れん。（リヲフに。）愈々クルイムに行くとすれば、差當り金も入ることですが、然しまあ、それは奈何とも調達はしませうが、所で肝心の彼女がです、多分其轉地をすることにや承諾を致しますまい。

リヲフ。左様、多分厭と云はれるでせう（間。）

ボルキン。いやドクトル、實際アンナ●ペトロウナは那様重い容體なのですかなあ、クル

イムに轉地をしなければならん程の?

リヲフ。(窓を顧みる。)さうです、肺病です………

ボルキン。はゝあ!………惡いな………僕はもうさうからあの顏色で察してはゐた、どうもう長くは生きてられまいとね。

リヲフ。靜に有仰つて下さい………家へ聞えますから………(間。)

ボルキン。(溜息をして。)やれ〳〵、我々の生命……人間の生命なんぞと云ふものは、丁度さうだね、野に綺麗に咲いてる花のやうなものだ、俄に山羊が來て食つて了ふ、もう花は無くなつた………

シャベリスキイ伯。皆途方もない、下らない、馬鹿げてることだ………(欠をする)馬鹿な、可加減な。(間。)

ボルキン。聽給へ諸君、僕はね、何時もこのニコライ●アレクセエヰチに金儲けを敎へるんです、現にある一つの非常な妙案を聞かして見たのですがな、どうもはや、何時ものの通りに、僕の火藥は矢張その濡れた土地の上に落ちて了つたと云ふ始末さ。この人にはねえ、敎へると云ふ事は絕體に出來ないんです………まあ、ようくこの人を見て遣つて下さい、陰欝、悲嘆、憂苦、煩悶、悲痛………

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

シヤベリスキイ伯。（立上つて伸をする。）君は天才の頭腦だ、皆の爲に發明したり、又奈何生活すべきかを敎へてゐる。だから俺にもたつた一度位は敎へてくれても可いだらう……

…ねえ、敎へておくんなさい利口もの、俺にも出場を見せて下さい………

ボルキン。（立上る。）どれ、水を浴びに行かう………皆樣失敬 ………（伯爵に。）君にや二十個所も出口があるさ………僕が君だつたら、一週間したらもう二萬圓も儲けて見せるがなあ。（行く。）

シヤベリスキイ伯。（彼の後から行く。）そりや奈何云ふ工風かね？ さあ、一つ敎へてもらはうか。

ボルキン。其ことなら別に敎へることは要らないんだ。至つて譯きあないんだ………（又戻る。）ニコライ・アレキセエキチ、僕に錢を貸して下さい、壹圓！

（イワノフは默つて錢を彼に遣る。）

ボルキン。有難う！（伯爵に。）君のねえ、手許にやまだ澤山可いことがあるんだ。

シヤベリスキイ伯。（彼の後について行きながら。）だから甚麼ことさ？

ボルキン。君の位置だつたら、僕は一週間で三萬圓も或はもつとでも儲けて見せるさ。

（伯爵と共に退場。）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ。（間を置いて後。）餘計な人間や、餘計な話や、馬鹿な問題に就いて挨拶をする、這麼ことは實際ドクトル、僕を殆ど病人にして了ふ程に疲らせますな。僕あもう此の節は全然(すつかり)短氣な、癇癪持な、いら〳〵した、氣の小さい人間になつて了つて、自分でも自分が解らんのです、一日頭が痛む、兩耳ががん〳〵云つて、夜は眠られんので……然し逃場が何所(どこ)にもないです……何處にもそりや……

リヲフ。私はニコライ・アレクセエキチ、實は眞面目に一通り貴君にお話を致したいことがあるのですがな。

イワノフ。どうぞ有仰つて下さい。

リヲフ。私は別ではないが、その御令閨のことについて申上げたいのですが（腰を掛ける）彼女(あのかた)はそりやクルイムに轉地なさることは御同意なさいますまいが、然しですな、若し貴君と御一所になら屹度お出でになるだらうと思ひます。

イワノフ。（考へながら。）さうとすれば金が又二人分入ることになる。其上に役所の方からも、さう長くは休暇をくれなからうし、もう今年は一度休暇を取つて了つた後なのですからな……

リヲフ。然しまあ假りにそれを眞實として置いてゞす、まだもう一つはこれですが、全體

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この肺病には、何よりも大事な藥なのは全き安靜を得ることです、所が貴方の御令閨は、只の一分間もこの大切な安靜と云ふことが得られないのです、詰り貴君が彼の女に對しての態度に就いて、始終心を痛めてゐられるのです、いやどうかお許し下さい、僕は非常に感情が激してゐるので、皆卒直に申上げます。僕はさう思ひます、貴君の所爲が、正しく貴君の御令閨を殺しつゝあるのです。（間。）

イワノフ。或はそれは實際でせう……實に僕は罪があるのです、然し僕は思想が變に錯綜つて、心を縛られて、何とも云はれん倦怠な氣分で、もう殆ど僕にや自分を解する力もないんです。人のことも、自分のことも解らんのです………（窓を眺め見て。）ひよつと話が聞えるかも知れませんなあ、どうです、彼方へ參らうぢやありませんか、彼方を歩きませう。（立上る）いやドクトル、僕は初めから貴君に皆身の上話を致す意りですが、然し隨分長い話で、又複雜つてもゐますから、皆お話するにや朝まで掛るでせう（二人は行く。）アニウタはそりや氣立の優しい、全く類のないやうな好い女でした………彼女は僕の爲に其の信仰を換へて、父を棄てゝ、母を棄てゝ、其富有な身分までを皆棄てゝ、此處へ來たのです、若しまた其上に僕が何かを要求したなら、百の犧牲でも彼女は喜んで僕に献げたでせう………だが、翻つて僕は奈何ですか、僕にや何の優れた所もなく、何の犧

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

牲をも爲やあしなかつたのです、まあこれは長い身の上話ですが……譯は那樣やうなのでしてね、いや、ドクトル（少し躊躇して。）まあ……其の摘んで云へば、僕は非常な、熱烈な、戀愛で、結婚を爲、さうして一生涯屹度愛の變らないと云ふことを誓つたのだ、然し……五年を經て、彼女は矢張少しも變らない、僕を初めと同じに愛してゐるが、その僕は……（兩手を開く。）僕は現在貴君に、もう彼女は直に死ぬと云はれても、別に愛も、愁も感じやしない、ただ自分には譯の解らん、空虚な心持と、疲勞を感じてるばかりです、もし他人の立場から僕を見たら、隨分酷いものでせう、自分が自分の心で奈何していゝか解らないんです……

（並木道に沿ふて行きながら退場。）

——未完——

瀬沼夏葉譯

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

響の影 ―マツコアー―

十二月二十日

かの舞踏會の日より早くも二週を閲（けみ）しぬ。われは再び傾く意氣兎角沈み勝なり。

わが幼時を回想す。われには確かなる記憶といふもののなきにや萬事悉く夢幻の如く思ひ浮ぶ事もいと朧ろげなり。わが好んで口になせし言葉の内に「われは解せず」といふがありたり、われそれを口になせし時は必ず「愚か者よ强情よ」と罵られしは常の事なりき。かくてわれは次第にわが身の幸薄きを感じぬ。われは實に全ての物を解すること能はざりき。故に屢々嘲笑せられ或は罰せられぬ、われは自から奈何ともする能はざることによりて罰せられ反て眞のわが罪は（われは多くの罪を犯せり）觀過せられぬ。われは特に一つの例を記憶せり。

そはわが始めて學校に行きたりし前日の事なりき。われはいと恣に振舞ひわが家庭敎師の物敎ふるを煩さしと拒みぬ。氣いらだち不快の念押ふるによしなし。われは僅かに八歲

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なり遂にわれは敎師と爭ひ彼女をいたく罵りぬ。全てのもの醜く思はれぬ。われ敎師と爭言ひし葉の中にわが薄倖を語り例令奈何なる境遇にわれをおき如何に完全なる敎育を授くるも到底われを救ふ事能はざるべしと確く心に信じたる樣にてあげつらひぬ。かく語りし時ヒユーフ孃（家庭敎師の名）は驚ける面持ちにて暫時われを眺めゐたりしが軈て嚴かなる光その眼に表はれぬ。

われは幾度もおなじ言葉を繰り返しぬ。奈何に責めらるるも謝罪せまじ、われは何人の來るも逃げ隱るるが如きことをせじ。若しわが家を逐はるるが如き事あらば花賣少女たるべしと確く自ら決しぬ。ヒユース孃は餘りの事に最早われと言ひ爭ふの無益なるを知りて座を出で行きぬ。父君は夕にいたりて歸り來たまひぬ。わが家の人々は何事をか囁き合ひぬ。われは獨りわが身の成行きを思ひみぬ。軈て父は我が室に來り給ひて其の日の學科如何になぞ訊ね給ひぬ。われは即座に終日怠たり師に對して不從順なりし事を包まず打明けぬ。わが聲に力こもりゐたり。

「さなるか、その他卿の口にせし事ありや」父君は意味あり氣にわれを瞶めぬ。

われは暫時躊躇ひぬ。父は遂に怒りを面に表はしつつ「卿はみづから不幸なりとかこてるにあらずや」

われは心掻き亂され思ふが儘わが罪を告げぬ。父君は不可思議様にわれを叱責したまひて一週の間二階にとぢこめ給ひぬ。われは二階にありて獨りわが惡しき行爲を想像しぬ、されど自から不幸なりといふを口にせば何故に罪深きや到底われの解する能はざるところなりき。われは自からの不幸を以て人を責めんなどは露ばかりも思はず。

わが生は誠に果敢なく哀愁多しといふのみ。ああ只それのみ、人々はわれを後眼にかけぬ。その週の間われは人々により流罪者のごとく取扱はれぬ。

かの日以來われは兎角舞踏熱に浮かされぬ。われは嘗て劇場に赴かんとの念を抱きしことなし、そは常に舞臺の上のわれのみを想像し聽衆となるの心なければなるべし。近來また／＼セヴエラインの君の俤わが心に浮みきたり若し再會を期することもあらばなどさま／＼に思ひ廻らしぬ。今朝も又クロイツエルに浮身やつしつゝキオロンの都を回想しぬ。

他日もしわが作の舞臺に上る事あらば聽衆は全く暗黒なる中に座してわが樂に耳傾けざるべからず。渠等は何物をも見ることを許されず只管に聞くべし。

名けて樂劇的シンフオニーと呼ばんか、言ふまでもなく在來の樂劇に對する迷妄の打破なれど何處にか樂劇の感じを有し形式多趣多樣なれどシンフオニーと言はば先づは遠から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ん。かの戯曲的分子こそ眞に樂の精髓を害ふものなり。されどわれはワグネルが曲中に純粋なる樂を認め例令渠等理論の誤謬あるにもせよ樂劇的形式を辿りたるのやむなきをわれは承認せんとす。

あゝいと寒し、わが指先悉く痺れ今はペンさへ持つこと能はずなりぬ。

空澄み渡りて一面に星輝き出でぬ。かなたに青白き月影あり。かの星晨といふものわれ等の得知らぬ一大樂器の樂譜にして一度觸れなば忽然として妙音響き出づるにはあらざるか。星樂(スターミユージツク)!われはかれ等を仰ぎつつ崇高なる天上の樂律を探ぐらんかな。今しも弓形の星宿フトかの舞踏會の夜の白薔薇を連想せしめぬ。かゝる夜街を彷徨ひ歩かんは奈何許り興多きことぞ、人々の知らざる間に抜け出でたらんには如何。

窓を開きぬ。冷やかなる夜氣わが膚に觸れ、わが心そぞろに動きぬ、われは外出せざるべからず。爛々たる寒星を頂き白砂の地を踏みつつかかる夜に逍遙するは何等の光榮ぞや。

われは何人にも知れざる様忍び出でぬ。空には一片の白雲だに非ず。われは歩みつつ夢にてはなきかと思ひぬ寒氣漸く膚にしみ渡り全身の纖維悉く栗立ちぬ、疑ふべからざる現

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

實なり。わが室に戻らば直ちに火をかきおこして不快の感を拭ひ去らん。わが心醒めたるにや容易に寢につきがたし。

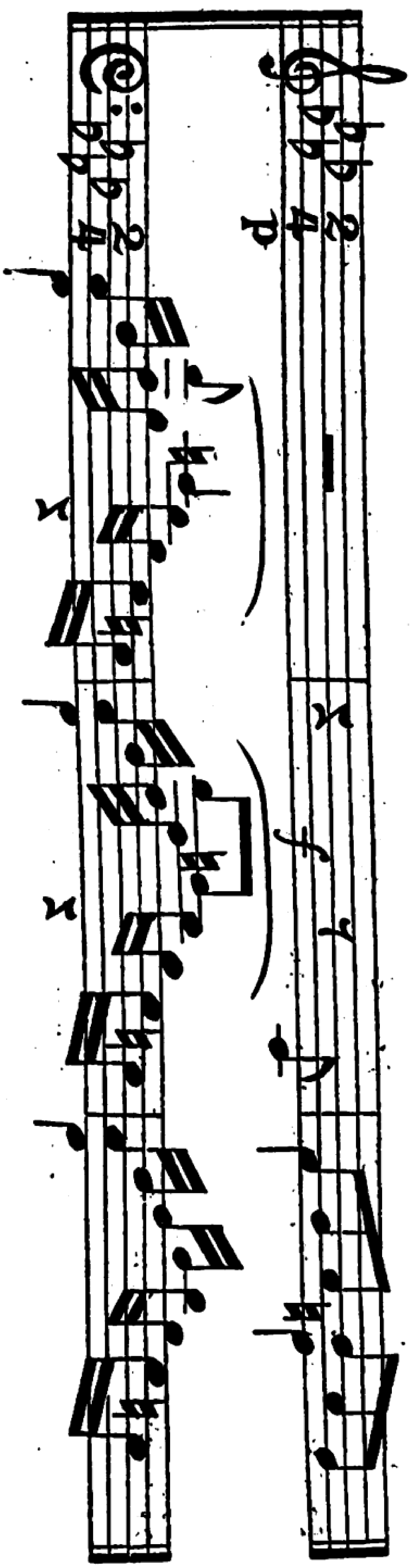
約二時間餘り何處とも定めなく彷徨（さまよ）ひたるものの如し。わが歩みし町々はいと靜かに響音さへ雪の爲にかき消されて聞えず。半ば眼を閉ぢつつさまよひぬ、冷やかなる夜氣わが髮をなでぬ。

軈てわが歩める町々は實在に非ずして空想の所産にてはなきかなど考へ始めぬ。灰色の高き塔其處彼處に聳え立ち淡き黄色の光あり、一人の人々だに遇はず、萬籟寂として聲なし。時に影の如き形わが眼にとまりたれど忽然とかき消すがごとく去りぬ。靜かに〳〵わが前を過ぎ須臾にして暗黒の裡に沒し去りぬ。われは歩めどわが足絶えず同一の場所に停止しつつ周圍の家々わが身を廻ぐるが如く感ぜられぬ。

甚深なる樂音かなたの星座より響き來るがごとく思ひぬ。半音階的調（クロマチイツクスケール）もて低くなりゆくよと見るまに此の度は同一音程にて次第に高まりきたりぬ。……深くして長し。軈て長（イーヂ）和絃（ヤーコード）中に隱れたる諸音も微かに喚醒まされぬ。かくのごとき充實せる樂の音にわれは嘗て接したる事なし。

わが過ぎ行く街上の家々は恰も色彩の結合せるが如くなかには美しき模樣に染めいださ

れたるが屢々わが眼を刺戟せり、そこにまた心に通ふ樂の響きあり。漸次に響はうすらぎゆきて軈て水底を流るる水の如き朦朧たる感をもたらしぬ。何處ともなくわが耳に左の旋律はいり來りぬ。



熱烈なる暗流の白熱響音！

いつしかわれは廣々と明るき場所にきたりぬ。堤防なり。下ゆく水の流れはかの旋律と融合してわが耳に響きぬ。

空想の市街はやがて現實のそれに變り初めぬ。金漣ただよへる水面を滑べりゆく小船の姿折々浮木にあたる船體の音も手にとるがごとし。フトわれは又た傍に黒ずめる枯木の恰然雪中にモザイクの如く立てるを見き。

わが足頻りにほてり痛みをさへ加へきたりぬ。疲れたる足を曳きつつ漸くカビデリーに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

までたどりつきぬ。そこには二三の馬車の影みえぬ。今は大方劇場もはねたりと覺しく人々の姿もみえず、折々怪し氣なる女の男を擁しゆくを見るのみ、われは全身綿のごとくあまりの苦しさに暫時瓦斯燈の柱にもたれ屢々雪の上に倒れんとせるわが身を支へぬ。かかる間にも僅かの人影を認めつつ鳥籠のごとき家庭を拔け出でたるわが身の自由を心ゆくまで思ひ廻らしぬ。わが前を過ぎゆく人々の或者はわれに言葉かけゆきたるもありき。されどわれは何事も答へず。たゞ舞臺を眺めつつあるかの如く感じぬ。

雪二片三片わが顏にあたりぬ。われは遽に目醒めたる者のごとく空を仰ぎぬ。空は全たく曇りはて一點の星影さへみえず。人々の歩みせはしくなりゆくが如し。

われは鉛のごとき暖かさを身内に覺えつつ夢見るがごとく家路に急ぎぬ。やがて着きぬ。靜かに階段を昇りわが室に入り思はず打ち臥しぬ。

眼閉ぢがたし。明滅せる燈火をり／＼黄色の焔を散しぬ。その毎度(たびごと)にセヴエラインの君の頭と肩とは眼前に彷彿しきぬ忘るることを得ば奈何に幸福(さいはい)ならん。

星樂(スターミユージック)なほわが耳朶に鳴りひゞく。そは絃より發する響にあらず、濡れたる指先もて酒盃の緣を磨擦して發しきたる響なりとも言はんか――いふまでもなくそを百倍せる程の響きなり、ああ！　寒さはげしき冬の夜に戸外に逍遙してわが身の自由を感ずるは如何に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

愉快なる事よ！

われはかの色と模樣とを再び憶ひ起さんと務めたれどあだなり、かれらは全て消え失せてあとをも止めず。

身内次第に溶けゆくがごとく、睡魔おそひきたりと覺し。寐に就かざるべからざるか。――

二月十四日

かの驚ろくべき夜より短かからぬ時は流れ去りぬ、わが病氣いかに重かりしよ！　一週が程は人心地あらず夢中に打臥したるまゝ物狂はしき樣に星のことのみ絶えず口走りゐたりと人々は語りぬ。誠にさることのありしなるべし。さはいへ彼等の語るところあまりに大業なり。かの夜のこと今は只はるかなるものを望むが如く、われまことに外出せるにや或は部屋に止まりてわが日記にかいつけたるが如き全ての經驗を想像したるにや定かならず。われ若し外出せざりしとならばわれいかで遽かにかの病を得ん？

われいたく衰弱せりし漸くもの書きつくるまでになりたれど人々はそを確く禁じぬ、されどわが傍に机あり、われひとりなる時奈何で筆とらざらんや。

二月十六日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何んにてもよし、わが爲にピアノ奏でくるる人もあらばとわれ切に乞ひぬ。人々はただやさしくわれを慰さめ今は靜かに心落ち付け露程もさる念いだくべからずと戒めぬ。

病床に横はれる間、母君はわれにとりて眞に天使のごとく振舞ひ給ひ、片時もわが傍を去らず、只管わが機嫌を損ずまじとにや怪しく恣ままなるわが言葉をききぬ。昨日もわが好める白き水仙花をば同じ色の高き花瓶にいけたるを持ち來たり給ひぬ。かくしてわれ等は相互に深く相愛せるものならざるべからずと今更のごとく感じぬ。然らざればば日頃われらが趣味の大差も左程苦痛を與ふるの種とはなるまじ。父君は何故にや餘りに姿を見せ給はず。偶々わが部屋に來給ふも、默して多く語り給はず。故にわれは父君を知る事少し。ただ樂に對して何等の趣味をも持ち給はず。奈何なれば左程まで樂を嫌ひ給ふにやわれは解する能はず。されどわれは父君に嘗て訊ねたることもなし。恐らく本能的に忌み嫌ひ給ふなるべし、或は樂の音と共に父君の心に耐へがたき何物かの連想せらるるが故なるにや。

二月十七日

心地とみにすぐれぬ。醫師はわが病の原因をばわれの罪に歸し必ずや無法の行爲ありしならんといひぬ。われは微笑するのみ。われもしかの夜に就きて物語らんか醫師は必ずわ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れを狂なりと診斷せん、母の心思ふべし、われ奈何で語ることをせん。

穩やなる日なり。雪も大方消えさりぬ。ただ見る紺靑の空にをり〳〵白雲の過ぎゆくを見る。麗らかなり。戸外を思ふ床上にあるは懶し。樂音に接せざること久しいかな、窓外より漂ひきたる巷のどよみ僅かにわが心を慰むるのみ、わが指とく鍵盤に觸れよ！

醫師再び見舞ふ。態とらしき微笑長き上衣ああ見るも煩し、明日は暫時の間起床するも差支へなしとの許可を與へて出で行きぬ。

水仙の花瓶今は一刻も早く取去られんことを。花全く枯れ凋みぬ。腐爛の暗示餘り多きに過ぎたり。

昨夜われ夢みぬ。われは大なる白百合の花となりて樅の林に咲きゐたり。風蕭々吹き來りてわれをゆり搖かしぬ。震へるがごとき樅の微かなる囁き聞ゆ。軈て跫音のごときものわが身に近づくよと思ふ間もなく身内に鋭どき感を覺えわれは刺されぬ、われは頭うなだれたるまま何處ともなく搬びさられぬ。身内の力次第に失せゆくがごとく途にわれは萎縮し初めぬ。われは窃かに死の近づけるを意識しぬ。

されどわれは死の來たる以前に目醒めぬ——かかる夢は他にもあらず白き水仙のなすわざなり。とく取去ずや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二月十八日

再びセヴエラインを思ふ、近頃は何故にやかの君に遇ひまつりたき意思頻りなり。かの君の姿眞は奈何なるにや思ひ起さず、唯だかの夜莫順科にて激越せるわが幻想に映じたる姿のみ深くわが心に刻まれたり。忽ち浮び來るは靈妙なる眼光と共にかの君の頭と肩となり。その形次第に偉大となり遂には石像のスフウキンクスに相對せるが如き感を抱かしめぬ。かの君の眼をわれは見ること能はず、ただ見る一道の光、空虛なる洞窟より發しきたるがごとし。

二月二十六日

病後保養の爲一兩日海濱に行くべく命せられぬ、われは作物を携へ行かんと欲す、されど奈何なる仕事をもなすことを禁せられつつあり、今はわれ僅かに人々のわが部屋に居らざる隙をうかゞひて紙の端くれなどに即興の節々を記し置くのみ。

わが病全く癒えたる時わが心滿ち足れり。靜かにわれは横たはりつつ何事をも思ひ浮ぶること能はざりき、されど漸くにして身内に湧き來る肉の歡喜を味ふにいたれり。今は再び歩行し能ふ身とはなりぬ。ふるき種々の煩ひ又々われを捕へ初めぬ。

街上に敷かれたる藁も今は大方取り去られぬ。往來の響再び手にとるが如し、われは初

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

め葉の敷かれたるを知らざりし爲めその靜かなるは白雪地上を蓋へるが故なるべしと惟ひゐたり、しかして獨りかの寒き夜の靜かなる逍遙を思ひ續けぬ。

軋り行く車輪の音、今は全く明らかにわれは頭の中に音調を刻みつつあり、何故に音調は各自獨特の意義をわれに與ふるにや解すること能はず。わが頭、痛めり、今日はこれ以上に記すべきこともあらず。

二月二十八日

愈々明日は母君と共に海岸に赴くことはなりぬ。われは滯在の成るべく短かからんことを祈るものなり。病氣全く癒えなば一日も早く兼ての作曲に耽らん事を乞ひ願へばなり。とは言へ海のごよみに耳傾けつつ膚に觸るる鹽風を心ゆくまで呼吸せんには奈何ばかり樂しき事ぞ。いまは氣分もとみにすぐれたればいささか心强し。惡夢に襲はるることも何時しか止みぬ。ああたゞ戀しきは鍵盤なり。今より一週の後は彈奏の許可を與ふべしと人々は告げぬ。徒らにわが好尙を妨ぐるもなにかせん。

二月二十九日　ボーンマウス

海に沿ふて一帶の田園あり、樅の林遠近に散在せり。海上いと穩やかなり。瀝靑など一面にひきたるものの如く人ありて海面を步むことあるも恐らくわれは怪むが如き事勿りし

ならん。いづれより觀るも美はしからず。ただ折々吹き來たる風さまで强からず限なく心地よし。今朝のそゞろ歩きにわれは風の爲め帽子のリボンを奪ひ去られぬ、われは帽子に手をかけつつ前方に踞みたる途端清鮮なる空氣を吸ひ入れぬ。日沒前に戻るべしと堅く命せられたるも母君の眼をぬすむ事を得ば猶止まらん。

近頃母君はわれを喜びいたく滿足なし給へるが如し。母君を慰さめんものをとわれも編物など試みぬ、かくしてわれは更に母君を欺き大なる罪を犯さんとなしつつあるを――

夕陽の沈み行くを望みぬ。いつもながら美し。われは東の端より漸次海濱を沿ふて歩みぬ。地平線は遙かに明らかなる半圓を劃して眼前に横はりぬ。暮色次第に蒼然として紅の日は茶褐色を帶び來りぬ。半圓の一劃は灰色に塗沫せられ金色の殘暉其の中に隱見せり、われは幾度かわが歩みを止めて打ち眺めぬ。地平線は今や全く灰色の靄に包み去られぬ。われは假りの家に着きし頃、日は青白く黃ばみ柔かき光線を上方に放射しつつ速にか下り行けり。左には灰色の靄次第に濃くなり行くを望みぬ。背後に市あり。遠近に黃色の燈影浮動すれど暗黑にして神秘なり。

他の一瞬に日は全く沒し去りぬ。地平線は悉く隱れ、金色の斑點もかき消されぬ。微風徐ろに起こり肌そゞろ粟だちぬ。家路をさして急ぎぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

母君は先づわが無法なる行爲に驚き給へり。われは論議はず、靜かに室に戻り、爐邊に坐りて夕暮の光景を思ひぬ。なにとは知らねどわが胸さはぎ初めぬ。かの逼ふが如き灰色の靄の忌はしきなにものかを連想せしむるが如く、われは名狀すべからざる恐怖を懷きぬ、されど何物にや明らかならず、われは考ふることをやめぬ。

三月四日

われらの此處に來たりしより早くも一週を閲しぬ。われは最早倦めり、歸思頻りなり、特別なる感興をひくが如きものの絕えてなし。獨り松林に座寂しく冷やかなり思ひにかきくれぬ。單調なる海のごよみを除きては聞くべきものとてはあらざるを――

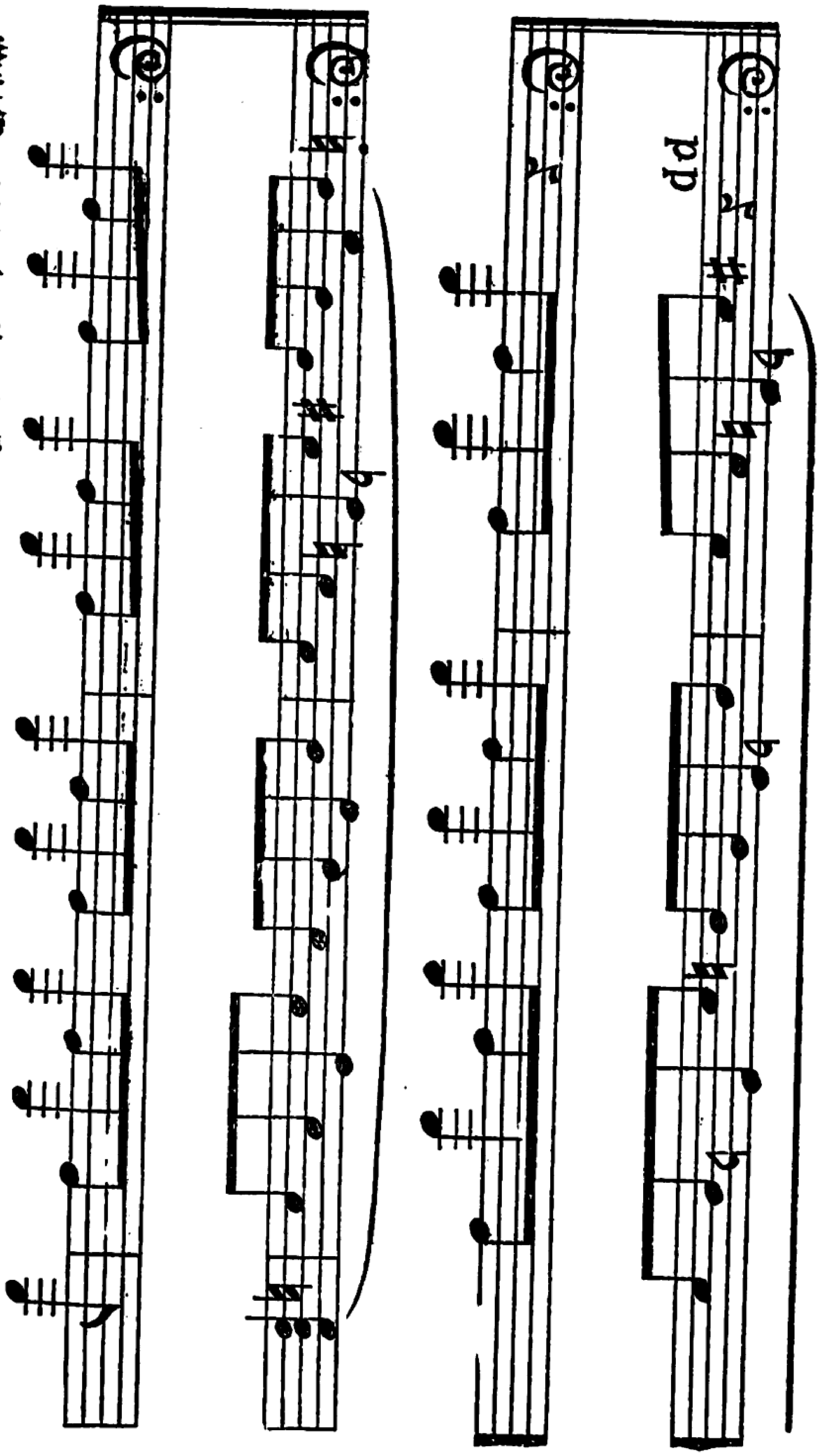
明日は愈々倫敦に戻るべし、われは再びピアノにかへらん。

三月五日

ついに。倫敦の奈何に心地よき事よ！　あゝもんどもやがて咲きいでん。春はきたりつつあり、われいかで感せざらんや。この一時は海邊の數日に比して奈何許りぞ。

われは己にピアノを奏でぬ、最初わが指は無意義に鍵盤を走り、二三の調を試みつつありしが、いつしかパセチックの曲を彈じ、終りまで思ふさま奏で續けぬ。われは今にして始めて左の意義を解る事を得たり――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



奏で終りてわれは嘗て得知らぬ壓迫を覺えぬ。渾沌より新なる世界の生れ出づるがごとし、されどわが地球のごときものにはあらず。

暫くなほざりし爲にやわが手なか〳〵に自由ならず、されど軈て再び元に歸らん。長くはかがるまじ。

作物の進み頻りなり。もしわれ取材の撰擇に就き絶えず不可思議なる感を懐きて茫然たる事なかりせば更に著しき進境をみる事を得べし、われは取材の深き源泉をばただ朧ろげに感ずるのみ、そはわが周圍の事物並びに現象と何等の係りある事なし。思ひ一度此處に至る毎にわが胸轉た疑惑の雲に閉さる。

われはパセチックの曲の深奥なる意義をば稍や少しく解し初めたるがごとし、とはいへ未だ些少の感をだに與へざる節々あり、更に研鑽を重ぬるの曉には必ずや新なる感興をば其等の中に見出すことあるべし。わが智能（インテレクト）は與りて何等の力あらず、僅かに肉感的鑑賞（センシュアルアプレシエーション）の媒介たるのみ、例令へば今將に死せんとする人を精細に描寫せるものに接せんか、われは毫もそれが爲に心を動かさざることなきやも計られず、されど一度死にゆく人の面前に立たんか、忽ち以前の記憶は精細なる説明となりて顯はれその人の位置をば充分明かに指示すべし、われ奈何でそのまゝ過すことを得んや。

三月六日

父君少しく打ちくつろぎ給ふが如き景色みゆ、わが病の全く癒えたるを喜び給ふなるべし。今朝もわが室に來り給ひて凡そ一日に何時間程練習を重ぬるやなど問ひ給ひぬ。われは至極曖昧なる答をばなしおきぬ。何故に父はわが嗜好に耽るをさまで嫌ひ給ふにや、解

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

することと能はず。何時か機會(をり)あらば父に訊ねみんとは思へどもなか〳〵にさる勇氣もあらず兎に角わが父は冷やかなるものの如くわが心に映ず。

春の來りつつあるを感ず。さなり程近き公園の木々に小さく愛らしき綠の嫩枝(わかえだ)あり、空には薄絹のものを包むがごときけはいあり。かなたの家々の窓に置かれたるサフランの鉢はわれには少からぬ興味を覺えしむ。朝毎に少さく黄なる頭ふえゆくをわが窓より眺むれば恰も小さき焔のごとし。

巷の塵くさきにえならぬ花の香打ち混じりて春を告ぐ。春過ぎなばやがて懷かしき夏は再び廻り來たるべし。わが曲目にも變化あらん。ショッパンには未だ少しく早やし、古典(クラシカル)的情調(ムード)に於けるシユーマンにても彈せん。歌ものには五月まで手をつけざるべし。一陽の來復と共にわが作物も次第に變じゆくが如し。わが作中には四季折々に順應すべきあるもののあるは明確なる事實なり。天機洩らすべからず。

三月十四日

わが誕生日なり。親戚の人々を晩餐に招きてわれを祝はんと母君を初め頻りにわれを促がす。われ二十一歳の今日までわが生を保つ事を得たるにそも何の意義がある。われは此の世に生れたるを喜ぶものにあらず。いかでこの日を祝する事を得ん。されどわが心をあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りのまゝ打ち明け母君の乞を拒まば母君は必ず惡しくそをとり給ふべし。かかる事起る毎にわれ等は愈々相互の孤獨を更に新たに感ずるが如し、われ等は益々はなれて各自の運命を辿り行き永劫に接觸すべき折を見出す事能はざらん。父は終日學術の研究に餘念なし。これ父が唯一の事業なり。深き經驗を有するとにはあらねど常に新なる醫學上の發見をなさんと努力しつゝあり。わが母は父を解せず。徒らに貴重なる時間を浪費しつゝありと思惟す。父若し母を伴ひて出で多くの人々のごとく笑ひさざめかば母の滿足を買ふ事を得んも、如此の如きは父の到底忍ぶ能はざるところにして、時に或は侮蔑の眼をもて見る事あらん。

かくして父と母は異なれる生活を持續す、愛は渠等の重荷なり、さるをなほ相互に愛せんとすわれ能ふべくんば務めて活潤に萬事を振舞ひ、終日科學の研究に盡瘁せる父を慰さめ兼て母をも喜ばすことを得たらんにはと幾度か思はざるにはあらねどわれは遂に終日音樂の他何物をも思ふ事能はず。われもまた全然孤獨なるを奈何せん。時としてはわが藝術に對する憧憬を棄て自由に人々を熱愛せんと欲すれども能はず。かくして母と父とわれとは同一の家に住ひつつ嘗て相接するの機なきがごとし。他日われ等は到底止む能はざるの命運なることを覺るの日あるべし。さるともあらば今にもましてその苦痛いかばかりぞや。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

われは明らかに記憶す、今より數年前のことなりき。フトせる機より母と人生觀に就きて言ひ爭へる事ありき、われは言はずとも厭世的なり、暫時は穩やかに言ひあへりしも人生は畢竟生活に價せざる旨を主張して止まざりしかばわが母は遂に怒りぬ。われ母君の不幸なるを暗に諷したりと推し給へるがごとかりき。遽かに椅子より離れ給ひ青白き頰には血潮のぼりぬ。

胸に充ちくる情を强いて押さへ給へるが如き樣子にて「われは不幸ならず、決して決してさることあらず。常に大なる慰籍を得神に感謝しつつあり。「若しわが娘（この時母君は少しく震へ給ひしが如く記憶す）にして從順によく自らの生を樂しみて共々に幸ある生涯を送るを得ば更に他に望むところあらず」かく言ひさして急ぎ室を立ち出で給ひぬ。殆んど淚にむせび給へるが如く思はれぬ。

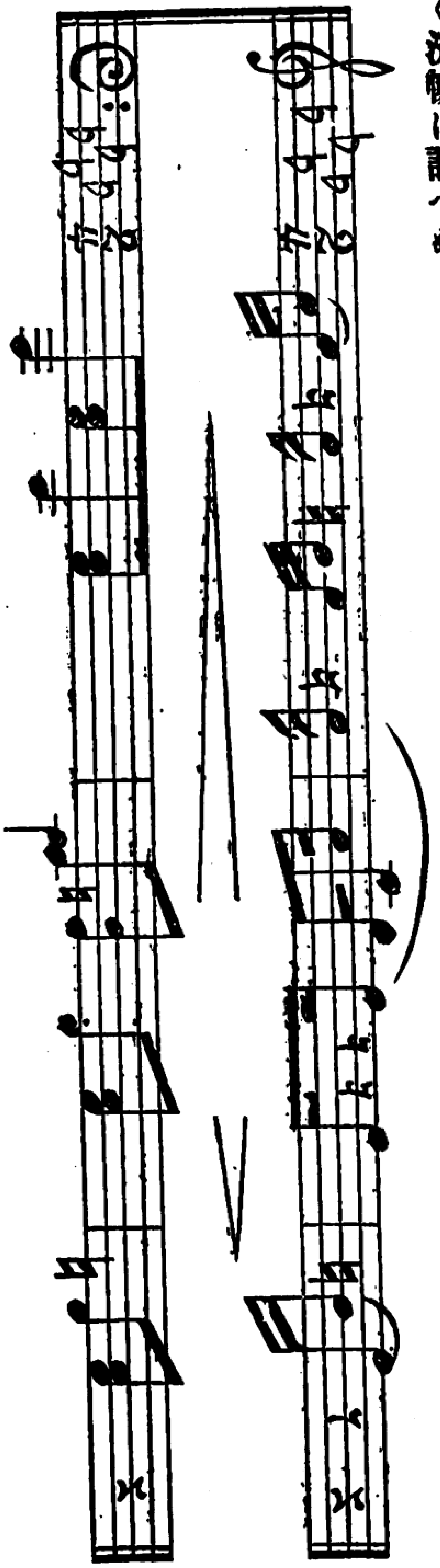
客集まりぬとか、われは階下に行くべき用意準備へざるべからず。衣物は孰れにせん？古びたる黑き物纏ひたらんにはとおもへど奈何にわれなればとて左程迄に殘酷ならず。

三月十五日

昨日は例に似氣なく振舞ひぬ。親戚の人々の前にて心ようピアノ奏でたるは蓋し始にし

て終りなるべし。人々は皆驚きの眼もてわが方を眺めぬ。初めわれ「デッド、マーチ」を弾せんとの願なりしが漸く其の願望(ねがひ)を翻してシューマンが小曲に換へぬ。人々はいつもながら「面白し」「愉快なり」などいひ合ひぬ。われは苦しき胸に怒りを忍びつつ常の練習曲を奏づるが如き様にて續けぬ。われはまた「カーナヴハル」をも奏でぬ。曲進みて、「アヴー」に來れる時室内は水を打ちたるが如くに靜まりぬ。人々の氣配(けはい)いと熱心に全く魅せられたるがごとき容顔にわが方を贍りぬ、悲しいかな渠等はただ聞くのみにして解すること能はず。室内の燈火薄く石竹色の笠の下にかがやきぬ。

燈火の置かれたる小さきテーブルに父君は讀書なし給ひつつ音樂には少しも耳をかさず在し給へり。「アヴー」は全曲の中に最も靈妙なる部分なり。われは鍵盤に目をふるる事なく流暢に調べぬ。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此處まで彈じ來りし時わが父の眼は書物を離れ、わが方をいたく恐れたる樣に打ち眺めぬ、わが指先氷の如く冷へ渡りぬ、われは辛じて曲を終りぬ。再び父を眺めし時、父は何氣なき樣子に立ち歸りてありぬ。されど「アヴー」の調べは父の胸中に堪えがたき記憶を蘇らしたること疑なし、父の恐怖に襲はれし樣は、わが幻想のわざくれにてはなし、決してなし。われは敢て父に訊ねんとは思はず、されど父をして音樂を忌み嫌はしむるなにものか在せざるべからず、これ父が生涯の秘密なり、われは奈何にしても見出さざるべからず。樂は父をして甞て愛せし何人かを連想せしむるならん。我は確く然りと感ず。父は又樂に對して情熱とまではむづかしけれど、さりとて全く趣味を有せざるものとも覺えず。わが前にては強ひて好まざるがごとく裝ふにはあらずや？ そも〳〵何故ぞ？

三月十六日

今朝も昨夜の事忘れがたくそれのみに心奪はれぬ。われ「カーナヴアル」を彈じてかの一節に至りし時、父君は訝かし氣にわが方を眺め給ひぬ、われは曲譜中に何等かの悲劇を發見せんと務めたれど徒なりき、曲は始より終まで美し、されど父を動かしたるは決して曲の力のみにてはあらじ。父が情緒の亂れを見たるは甞て只一度なりき。とある宵なりき。フト何心なく父が書齋に行きぬ。父は古き書簡を眺めつつ涙にかきくれゐたり、われの姿

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を見るや否、一葉の寫眞のごときものを封筒の中に手早くかくしぬ。逝かれる舊友の手紙にてもあるべしとわれは深くは思ひ及ばざりき。今朝再び昨夜の事思ひ廻らしつつ父の舊友は生前必ず「カーナヴハル」の愛好者なりしならんなど思ひ廻らしぬ、さるにても「アヴー」の一節に至るまで父の態度の變せざりしは何故ぞ？かの折の父の容貌は悲しみのそれにあらで寧ろ著しき恐怖なりき。

三月二十一日

風身に沁みて寒し、小さき緣の下萠もいたく寒はれぬ。今朝外出なしたるに風の爲めわが眼しきりに痛みぬ、毛髮亂れてまたわが顔を被ひぬ。

新らしき事なし舊きわづらひ再び萠しつつあり。作曲すら倦ましきものとなりはてたれば暫時新なる感興の起るを待つより他はあらざるべし。わが父の謎を奈何にしても解かんものと絶えずわが心を惱ましたりしも徒なり、われは何等かの手がかりを得るまでは先づ見合はさん。

三月二十三日

見合はす事容易ならず。父の友なりし人は如何樣にこの世を去りしにや、若しや「カーナヴハル」を彈じつつそのまま逝かりしにはあらずや、われは父君に訊ぬること能はず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

風の咆哮り狂ふことよ！恰かも人間の叫べるがごとし。倫敦のあらゆるどよめきを種材に倫敦シンホニーといふを作らんには奈何に。林檎賣の笛を初め凡ゆる物賣の呼聲を覆追樂風に配列し車輪と風をそれにあしらひたらんには面白かるべし。

母君は近頃頻りに季節に就きて語り給ふ。われらは幾許の馳走をせざるべからず、今年は招待せらるる數何程にやなど口ぐせになし給ふ。われはまた例の不快なる人々に面を過はさざるべからざるかと話の度毎に不快の念に襲はる。かの人々はさもなき事に力瘤入れ大業に語る癖あり。またかの求婚者のうるさき事よ。

先頃われは母と結婚問題に就きて語りぬ、例の如く常議に囚はれて平凡なる言葉のみ繰り返しぬ、快話なる調子一度も顯はれずしてわれ等は談を終へぬ、わが母いたく悲しめり、われもまた不興氣にて過しぬ。

われは何故に結婚せざるや？ われ若しわが好む家族の主婦となる事を得ば今より幸多き生を送る事を得ん。ああいとむつかしき限なり。嘗てわが見たる人々の中にてわが心を捧げ得る人は唯一人なり、それすら恐らくは空想より出でたるロマンスに過ぎざるやも許られず。かの君夫とならば奈何に、わが夫とならんには……？ かの君に逢ひまつりし

は僅かに二度なり、最早わが幻に映ずる姿を見奉るほか再び遇ひまつる機なかるべし。

されどわれは猶ほ待たん。わが美しさを失ふもなにぞ。わが美とわが音樂とは常にわれを滿足せしめがたし。

時にわれは救主の來たりて藝術は人生に於て最も卑く小なるものなることを告げ更らに「音樂を棄てて汝の周圍を眺めよ、而して哀れなるもの貧しき者の爲に汝が全力を捧げよ」とわれを戒め諭さんことを願ふ、されど救主は來らず、われは未だ心より熱せしむるが如き人道の偉人に接したることなし。われは絕對の美を只樂の中に發見することを得、わが內部に秘める肉聲の沈める時わが樂はわれを滿足せしむ。肉聲一度叫び出づればわが心は樂に對する憧憬を肉感的情慾の發現なりと告ぐ。われはその情を挫かんと務むれど能はず、そは自からよりも强ければなり。

われは內部の苦闘を一氣に絕滅せんと試みたること幾度ぞ、しかもその勇氣なし。更に思へわれは敢てわが生に干渉するの責任をば有せざるなり。

三月二十八日

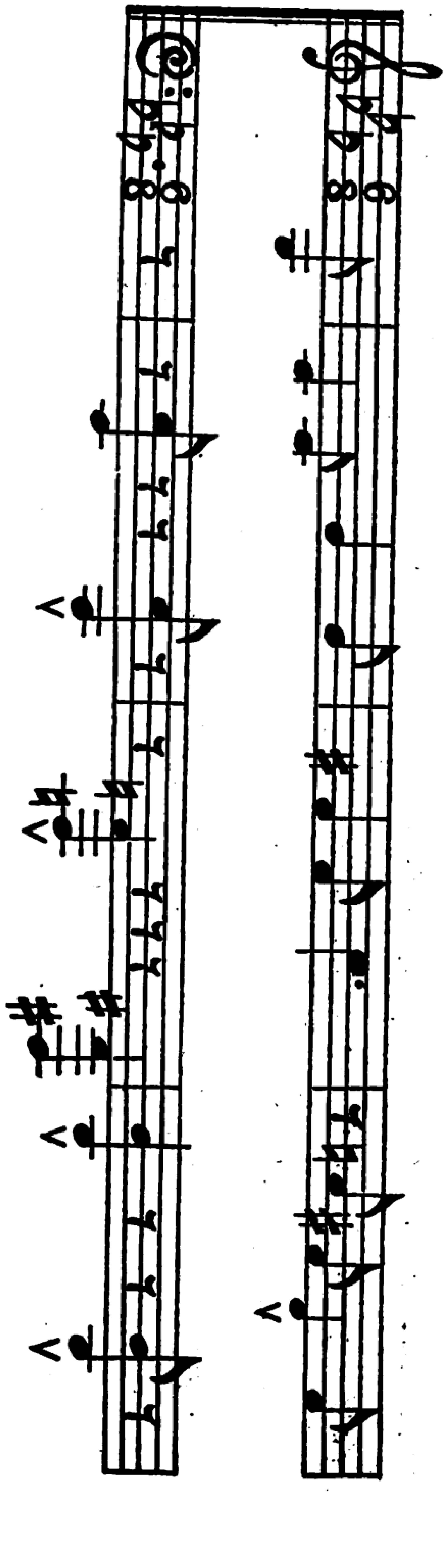
風も凪げり、麗かなる彌生の空も近きにあらん。

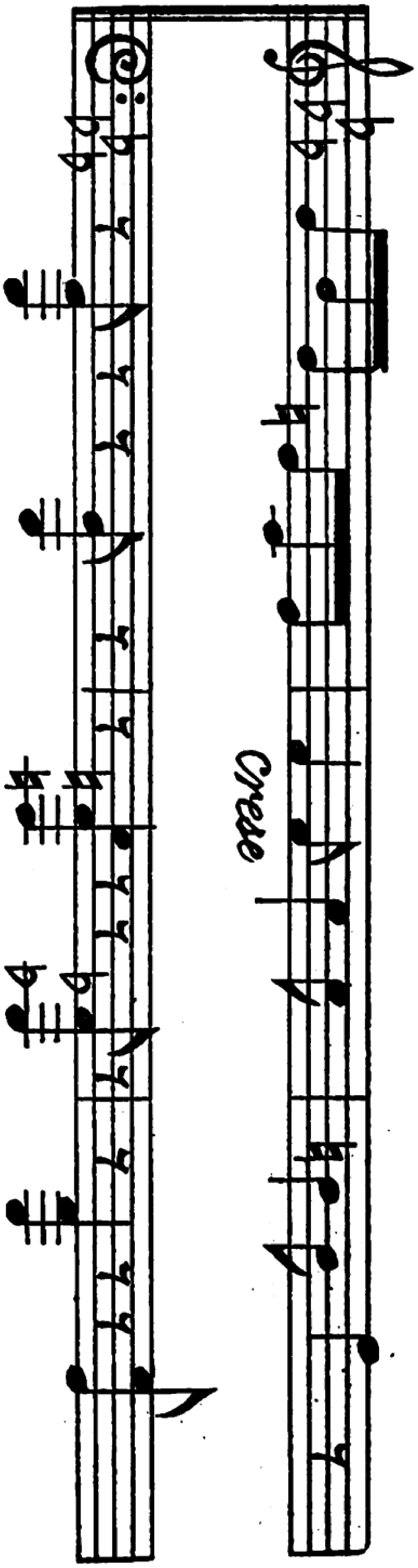
驟雨、青空、ちぎれ雲——日影その間にただよふ。雨遽かに降り出づるに人々あはただ

しく走せゆくさまの可笑しさよ。何故に？　かの人々はあながち衣服の濡るるを恐れて醜き態して走るにてはあらざるべし――否、それよりも更らに深き理由なかるべからず。われ等も猫のごとく本能的に濡るる事を厭ふにはあらざるか。動物の穴に走るがごとくかの人々も雨露を凌ぐべき場所に急ぎ行くなり。

日再び強き光もて輝き出でぬ。人々は自らの惡しき行爲を雨の爲に罰せられたるがごときさまに這ひ出ぬ。

人々を眺めつつわれは何時しか何事をか吟さみつつありき。未だ嘗て聞きたる事なき曲の一節なりとわれは惟ひぬ。





これ眼前の光景をわが爲に説明しつつあるにてはなきか。

四月五日

天候再び惡しくものみな面白からず。作物進まず。ともすれば耐へがたき疲勞を覺えわが全ての力痲痺せるが如き感あり。

午後從妹(いとこ)きたる。共に茶を呑みて語る。彼女は愛らしく無邪氣なる乙女(をとめ)なり、彼女は全ての人に好かる、われは少しく迷惑なり。間斷なくさもなき事を語りつづくるにわれはほと〳〵弱りぬ、彼女は少しも疲れたる氣配なし。彼女の何時も鮮々しきに反し、われの髯憂せくむつかしきことよ。髮容など凡て當世風なり。われは彼女の頭にまだ缺けたる處ありと人惡きことをいひしに彼女はわが言葉をサタイヤなりとも知らず手を後方に置きつつ話頭を轉じたり。

彼女は近きうちに結婚すべしとなり。夫となる人はかく〳〵なりなど訊ねざるに吹聽しゆけり。われは全く無感覺に彼女の話に耳傾けぬ。美しき口髭と大なる靑き瞳とをもてる丈高く美しき人なりとか「陸軍大尉なり」と傲り氣に附け加へぬ。彼女はまた夫の戰場に於ける物語りの今より待ち遠しなど臆面もなく語り續けぬ。われはその話だけにて最早充分なり、ああ考ふるも嫌なり。豚の如く肥へたる俗物なるべし！。

彼の女の物語りに倦めるわれは遂に彼女を眺むるに耐へずなりぬ。低き安樂椅子に腰打ちかけ膝の上に日傘を弄びつつ顏にはたえず微笑を浮めつつあるを見てわれも何故に彼女の如く笑ひ、彼女の如く幸福なる能はざるやと怪しみぬ、かくして更らに不快の念胸中に湧き來れり、心頻りにいらだちぬ。

彼女の去りし後にて人々はわれを冷やかなりといひあひぬ。彼女の結婚の話に移れる時わが母の眼に嫉妬の苦痛をわれは認めたり。

われは再び新らしき決心に歸りぬ、われは務めて外出し興奮せる神經をば徐々に靜むべし。遇ふ程の人々の性質に從ひ自からを種々に振舞はん。或人は如此き行爲をば惡しと咎めん、されど他人の道德說の爲めにわれはわが心の平和を犧牲とするに忍びざるなり。兎角してわれはわが人生を辿らざるべからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此の世の所謂道德なるものを無視するにわれは屢々躊躇ひたりしが今は日毎にさることを薄らぎゆくが如く覺ゆ。われには道德善惡に關する本能の意識なし、われは只自己保存の觀念を有するのみ。わが眞の格性は到底不可能なるものなり。そはわが滿足を奪ひわれを倦怠せしめ又恐怖せしむ。かくしてわれは假定なるものを創造り出さんとす、その創造には何等の神も與かることなし。若し神ありてそを知るも敢てその創造に與からんとするがごときこと勿からん、われはわがありとあらゆる力を用ふべし。われはわがとるべき態度の奈何に變ずるとも自からを失なふがごときこと決して非ざるべし、然り自我は全てを通じ到る處にわれに伴なはん。

四月八日

この數日をわれは愉快に暮すことを得たり。日麗らかに暖かなり、わが心地少しくすぐれぬ。われは周圍の事物に心奪はれピアノに對する興味少しく減じたり。母と共々屢々物ことのふべく町に出でぬ。

昨日われらは園遊會に着すべき衣服に關し、またも論議ひぬ。われは一色の物を撰みたるに母は色彩の對照よきものを主張したまひ、われは遂に緋の上衣を着し頭にはダイヤ入りの大なる黒き飾りをつくる等一々母君の指圖に從ひぬ。母君はわが服裝に多大なる趣味

を持ち給へるが如し。われはそをいつも乍ら一種の好奇心もて眺めつゝあり。現在(いま)の處われは容易にわが分をつくしつゝあり。今後いかに成り果て行くやわれは知らず。

四月十三日

われは次第にピアノに遠ざかり讀書に親しむに至れり。新らしき自我の奈何に發展しゆくやをわれは務めて注意し、日常のことをば精細に錄しみん。

父はわれの音樂より少しく遠ざかれるを見ていたく滿足せるやうなり。われは態と樂に對する趣味の薄らげるが如く裝へり。われ等の話は多く書物に關する事のみなり。

四月廿八日

二週を閱(けみ)しぬ。家の人々近頃は漸くわれに喜び親しむがごとし、われは極めて如才なく振舞ひ、また身だしなみなどなか〳〵に怠らず、日に三度程衣物着更ふるなど正氣の沙汰にあらず。

午前は鼠の幅廣く寛濶なる衣纒ひて、安樂椅子に數時間を消し、時に佛蘭西の小説など手にせるも徒らに頁をひるがへすに過ぎず。黄表紙はわが財産中最も有益なるものの一つなり。

過ぎし日わが朝の身裝ひ(みづくろひ)終りて鏡面に映つるわが姿眺めたるに可笑しき程姿の整ひゐる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に獨りして打喜びぬ。晝餐を終りて今様に髮容とゝのへ衣服を更めて公園に散策す、母とわれは其處此處に馬車を馳りて絕間なき往來の群集を打眺む。歸れば茶を喫して共に語る。その席に屢々媚を呈し恰かも犬の如く尾を垂るる靑年の群あり。夕に至ればわれ等は劇場に赴くにあらされば晚餐の席に列なる。

四月三十日

昨日はいと懈き日なりき。寐に就かんとわが室にいたりし迄片時もわれを思ふ暇あらざりき。室に入るや直ちに姿見の前にゆきぬ。白色のレースもて飾られたる薄靑く黃なる衣纒へる氣高き姿わが目に映りぬ。頭の周圍にはさまぐの寶石に輝き渡れり。髮は一絲亂さず、末廣の櫛際立ちて見えぬ。優に高雅なる中に嬌艶の趣いづくともなくあらはれ雅美の極致ともいふべき印象をわれは與へられぬ――頭はやや一方に傾き大きく黑き眼は半ば閉ぢられぬ。

この秀麗なる姿に秘められたる或物いたくわれを畏怖かしぬ。

われは手早くわが髮をほどき上衣を破るる程に脫ぎ棄て燈火を消して床に入りぬ。暫時が間暗黑を瞶つつわが變貌を驚き怪しみつつ思ひ亂れぬ。われはそをわが心の調子のなす業なりと感じぬ。この調子奈何に狂ひゆくにやと氣遣ふも徒なり。われ奈何で知らん。此

の時われは心身全く疲れ果て睡眠に落ちぬ。

五月一日午前十時

らいらつく、と　らばあなむの月はきたりぬ——年の内にて最もわが心に適ふ月なり。空氣いと濃やかに心地よし。われは今、今宵催さるべき園遊會に只管わが心奪はれてあり。綠の下蔭は生の力充ち溢れて鼓動も聞ゆる許り。薄き霧空をたちこめて日の光眠むげなり。窓より鳥の歌聞こゆ。

五月二日午前二時

今夜はいと不思議なる事を經驗したるものかな。若しわが心に道德なるものあらばそは只一の偶然に過ぎざることと最早疑ひなし。奈何にしてかの如くなりしや、われは知らず。ああ渠もまた何たる野獸ぞ——われは渠を惡む。されどわが感は極めて無責任なるものなりき。

試みにわれは全てありしままを錄し置かん。

父は兼てよりかかはれる患者を見舞はざるべからずとの事にてわれ等と共に行き給はざりき。うるはしき庭なり。風もなく穩やかなるものから母とわれとは無蓋馬車を驅りて行きぬ。街々は何處も群集簇りぬ。やがて市外に出でぬ、貧しき人々も夜の麗はしきに誘は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れて戸口に腰打ちかけ小兒等の戯れゐる樣など打眺めぬ。何事をも打忘れたる樣に皆己のがじじ戯れに耽れる態の可笑さよ、靑白き月光折々渠等を照らし舖道に白き縞をえがきぬ。馬車など過ぎ行く毎に渠等はハラーと叫び幼兒に至るまで可愛ゆき手を延して喜び迎ふ樣の愛らしさよ。

わが母は其夜出遇ふべき人々のことなど語り出でたれどわれは耳を藉さず、わが眼はフトある小路の隅に佇立める丈高く美しき女の子供を抱き居る姿を捕へぬ。彼女はわれ等のすぎ行くをいぶかしげに打ち見やりぬ。われはゆく〳〵心のうちに彼女が人生の片影を書きぬ。彼女は軈て瀟洒たる家に歸らん。其處には小やかなる庭園ありてかた計りの花圃なごあるべし。彼女の歸り行く頃パイプくはへて柴折戸にもたれ妻の歸りを待ちつゝある人あらん。われは煙草の煙りの渦きゆくを月明りに見る事を得たり。門邊に至るや彼女は傲り氣に子供を夫の方に差出さん、男は煙草を打ち棄て急ぎ子供を抱きかかえん。歡喜の色面に溢れ子供を愛撫せる男の姿、われはまざ〳〵と見ることを得たり。

馬車は止まりぬ。幻の影それと共に消え失せぬ。母は焦だちたる樣にとく下車せよと命じぬ、時正に十時半頃と覺えたり。われ等は僕の導くがままに當夜の女主人が面前に案內せられぬ、庭園は旣に綺羅を飾れる幾多の人々に充ちぬ。われもやがて人々の群れに立ち

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

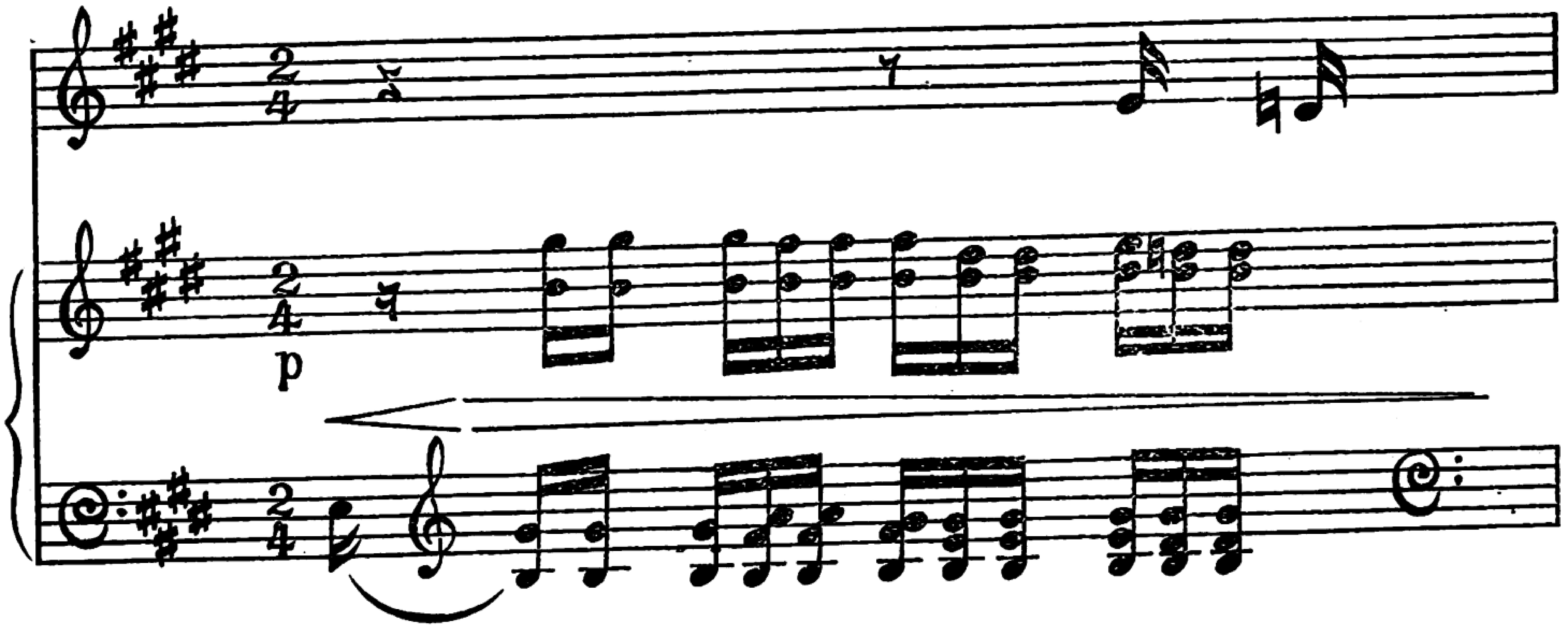
混じりて「げに幸福なり」「見事なり」「少しも寒からず、ああ美しき夜かな」など言ひあへる仲間に入りぬ。われは母の傍を去りて嘗て見知り越なる人と語るべくゆきぬ。われ等は館(やかた)の前の廣き芝生の端に立ちぬ。其處にも三々伍々人々は群り散在しぬ。多くの華麗なる婦人をわれは見たりしもわれは心に留めざりき。されど黒き衣纒へる丈高き人々の姿はわが心に深き印象を與へぬ、渠等は自然の最も盛んなる季節(シーズン)にありて殊にいぶかしく見えぬ。

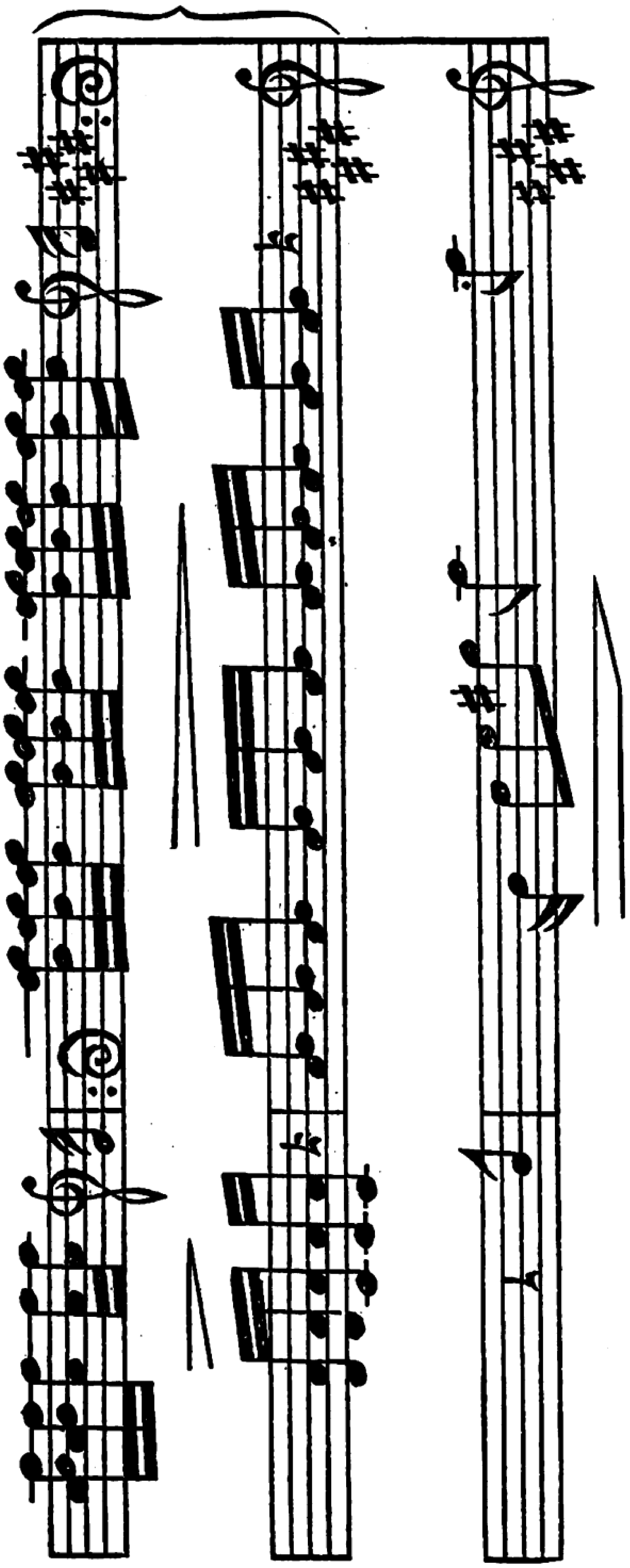
迂紆曲折せる一道の小路あり、われは芝生を汚したる嫌(いよ)はしく黒き姿をさけんが爲めその道を辿り行きぬ。

道はやがて盡きぬ、われは廣々たる毬戯場(ボーリンググリーン)に出でぬ。背後に老樹立ち並びて風にザワめきぬ。綠の芝生わが足に天鵞絨(ビロード)の如く感せられぬ。われは場(グリーン)の一隅に彳立してわが前に展かれたる美はしき夜の光景を只管に打眺めぬ。月光漾々として綠地を照らし草葉に宿る露の玉輝々として跳りぬ。濕り勝ちなる地には菓實の香そこはかとなくそぞろに清新なる感を覺えぬ。

われは老(ふる)き柳の切株に腰打かけ清き空氣を思ふ樣呼吸しぬ、その時わが全身に苦痛を覺え微妙なる旋律(メロディー)わが心に流れ來りぬ――。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER


p



樂の力を感ずること稍々薄くなりたるわれもシユーマンが歌に吟みたる時は自から樹木となりて月光の中に溶け行くが如く覺えぬ。

われは間もなく、礫道を軋り行く車輪の音に美はしき幻を破られぬ。本能の衝動とも云ふべきにやわれは頭上の枝をひき綠葉を一つ一つ驗べ初めぬ。枝上の露ハラ〳〵とわが面に轉び落ちぬ。

われはやがて葉上に小さき虫を發見しぬ。蜘蛛の巢に捕へられたる小虫は切りに身をも

だえて脱れんものをとあせりぬ。月光隅なくあたりを照らしてわれは小虫の一擧一動を監視する事を得たり。

一人の男わが前に顯はれぬ。われは一心不亂に瞶めぬ。

「植物の研究にや?」と男は無作法に聲かけぬ。

渠は丈高く顏容よき方なり。されどわれにとりては最も厭はしき感を起さしむる質の男なり。

風など引かば惡しからん、イザ庭園を共に一週すべしと男は促しぬ。われは再び哀れなる小虫を眺めぬ。辛じて一本の足の自由を得たるも他の足には無數の絲絡まりて遂に其の桎梏を脱すること能はず。

わが前に立てる男の姿に接してわが純情的の態度は忽ち消え失せぬ。われは枝を放しぬ、その刹那われは小虫の哀れなる運命をわが心に刻みぬ。無言のままわれは男の腕を抱へ共に歩み初めぬ。

今にして思へば其の節眞の「我」はわれ等が後に從ひ來れるが如し。當夜の光景を想ひ浮ぶるごとに緋の上衣纏ひて丈高き男の腕に縋りて歩める樣ありありと映じきたる、女の行爲は一種の恐怖をわれに起さしめぬ。われは彼女を止めんとすれど近づく事能はず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

われは試にかの男と戯れ男の奈何にわれを遇するかを見んと欲したるのみ。故にわれは衣服につける花を弄びつつ賣女のごとく語りぬ。或る時は歩みを止めて殊更らに男の顔を打眺め遠かに頭垂れて當惑の體を装ひぬ。われは何事を口にせしや大方打ち忘れたれど男はやがて其の態度を一變しわが手を堅く握りしめぬ。わが身内震えぬ。われは始めより渠の下劣にして獸のごときを知りていたく憎みつつ反りて渠を唆のかしつつなりたるなり。

ここに再びわれは緋の女の行爲を絶えず打守り激しき苦痛を感じつつある他の「我」が姿浮び來る。

女はさも恍惚たる様に男を打眺めぬ。軈て男は耐へざるさまに烈しく女を抱擁し熱き唇を接吻けぬ。われは今も尚ほそれを感ず、強き煙草の香われをおそひぬ。われは殆んど渠を殺さんとしぬ。されどわがとりし態度より渠にともすれば執着するわれの顯はれ來りてそを遮りぬ。

われは次第にわが無力を感じぬ、われは奈何になりゆくならんかと著るしき恐怖を懐きつつ男のなすがままに任せぬ。われ等は傍に人の囁きを聞きぬ。邸前の芝生とわれ等との間に植込みの芝れるあり、目的なく彷徨ひしわれ等は今人々の聲する方に知らずぐ近づき行けり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

われは恐ろしき夢より醒めたるもののごとく、初めて心に安きを覺えわが腕を渠より辷り靜かに芝生の方にゆきぬ。

「卿の髮のいたく縺れたることよ」と母は訊ねぬ。

「風に吹かれたれば——」と手早くわが髮を撫でつけつつさなき體に答へぬ。

われ等は間もなく家路をさして急ぎぬ、われは唯呆然と車上より月を眺めぬ。われは月に對して今更のごとく耻じぬ。月は容赦なくわれを照しぬ。

ああわれは遂に罌子粟粒程も道徳といふものを有せざるなり。かの夜ピカデリーにて見し人々とわれと何の異なる處ありや、若しありとすればそは境遇のみ、只其れのみなり。これわが新なる決心の結果なり。われ奈何に振舞ふも畢竟なんするものぞ？　要はただ深き悲哀を散ずれば足れり。われは到底この世に勝つこと能はざるなり。われ奈何に恣にわれを弄ぶかの上の小虫のごとく遂に此の世を脫るゝこと能はざるにあらずや。

五月十五日

全ての人が爲に感情を害しつつあり。われは屢々此處彼處に誘はるれど氣分惡しく心地勝れず、人中に出でたらんには更に惡しからんといひて拒みぬ。われ知らざる人々の前に出れば直に一種の感に襲はる。われ獨り室内にてピアノ彈じつつある時と他の人々わが傍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にある時とは全くその感を異にす。わが外出を拒める時はその影響の更に甚だしきを恐るればなり。時にわれ免がれたき災厄のわが身に落ち來りつつあるにてはなきかと、言ひがたき恐怖を感ず、他の人々われと共にある時殊に甚だし。人々わが前に座すも一度災厄のわれに落ち來る時渠等はわれを救ふこと能はず空しく手を束ねて傍觀するのみにして渠等の無力到底奈何ともなし難しと感ずる時、われは愈々災厄の身に逼りつつあるを覺ゆ。

　われは勿論わが心狀を母に語らず。語るも母は解すること能はず、醫師の許に行くべしと言ひ給ふ程のことなり。父も近頃われの再びピアノに執着せるを見て心惱しつつあるが如し。われは最早美しき衣服を見るに絶えず、華かなる色彩は不快の感を起さしむ、われは緋の女を忘れざるなり。われは依然としてわが態度を改めず、人々はわが爲に苦しめられ絶えず不平を洩しつつあり。

　近頃に至りて作物の進み著しく、われは以前に増して遙かに容易に且つ迅やかに書く事を得。今は專心に作曲に耽りて殆んど終日他の何物をも考ふる暇あらず。われは窓を開け放しつつ勞作す。今を盛りのらいらつくの香折々に乘りて來る。

五月廿七日

シユーマンが「フオーグル、アルス、プロフエツト」の意義朧ろげにわが腦裡に閃めきぬ。われは嘗て數百度奏でたるもそを解すること能はざりき。今にしてわれは曲中に秘める熱烈なる美を感受することを得たり。初めはわれ典雅なる結構の美をのみ認めたれど漸くにして異常なる樂の精髓を捕足し初め遂に外形を忘るるに至りぬ。

智的理解（インテレクチユアルクラスプ）といふも畢竟樂の眞髓に達するの媒介にすぎず。かの所謂智的翫賞（インテレクチユアルアツプレシエーシヨン）を云々する人のをこがましさよ。

樂の起原に關するわが好奇心再び喚起されつつあり。

六月一日

われは先づ月初に當りて思ふさまシヨツパンの作物に耽溺せん。

日あつし遙かに紺青の靄あり、來るべき炎熱を豫知せるがごとし。われは奈何に暑くなり行くも更に頓着せず。ああわが愛する夏よとく來らずや。

巷を談笑しつつ往來する人々は渠等の背後に赫々たる日光を感じ、森の小鳥は幾多の友と來るべき季節（シーズン）を喜び歌へが如し、地上に蠢めける小虫にも夏は來れり。冬に於て懶く死せるが如き人々も今は渠等の殼を拔け出でて愉快に語りつつあり、冬の間寒氣に堪へずして戸内に引籠り居る時、われは全く今と異なれる事のみ語り居たりしなり。われ等が自我（エゴイ）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

主義（ズム）は隨所に發現せられつゝあるにあらずや。

今や日光は輝々として耀き渡り諸々の花は暖き光を吸收すべくその頭を延べつゝあり。見よ至る處に濃艷華麗なる色彩の諧調（ハーモニー）あり、そは藝術家のそれにあらで自然の心（ハート）より發する鼓動なり。綠葉は微風に搖られて靜かにほゝえみつゝ巷の塵も未だそを汚す事を得ず。

夜は靜かにして星輝き出で相愛の人々がさゞめごと手にとる如し。

六月八日

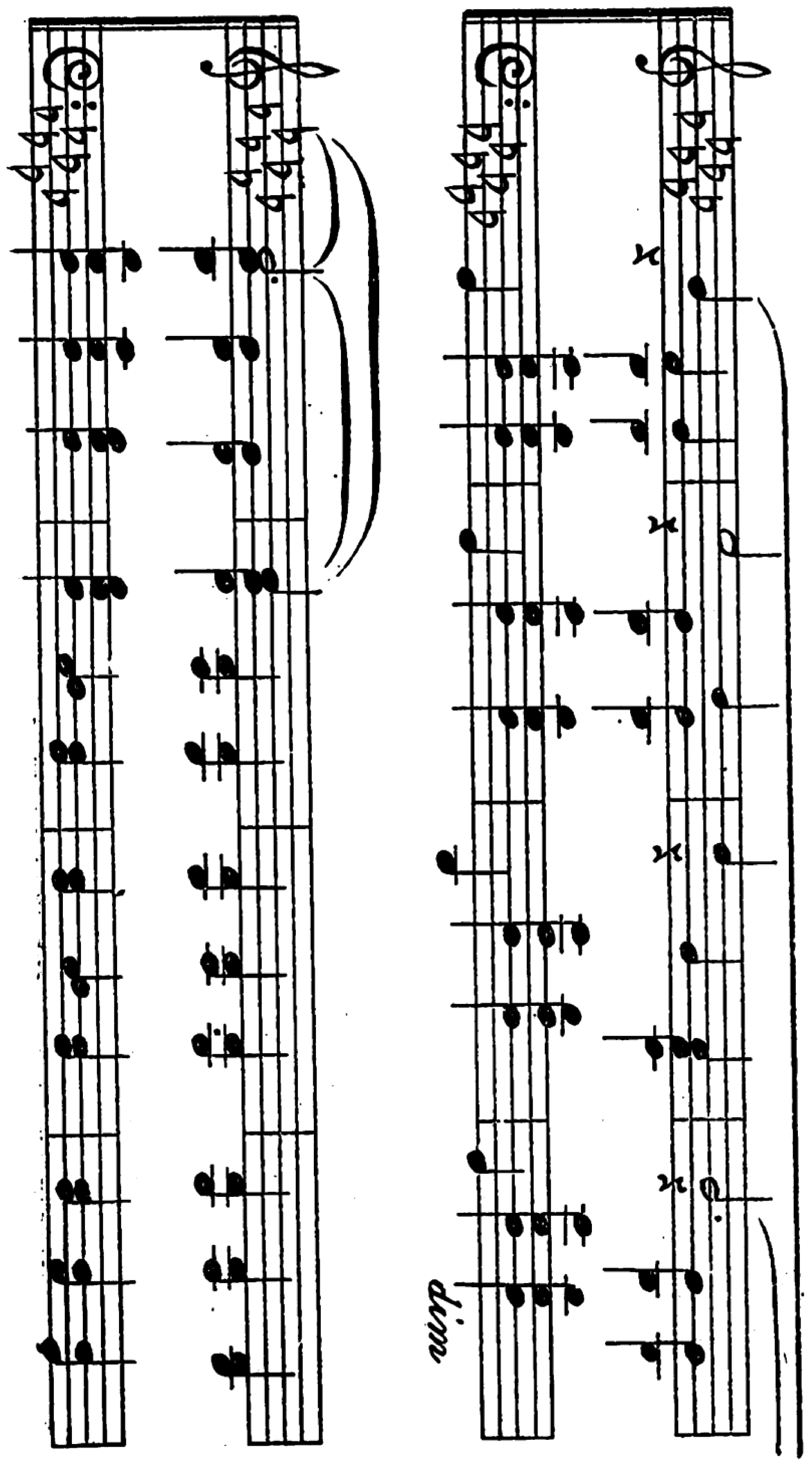
われはこの一週をショッパンが大曲にけしぬ。靈妙なる傑作！ われは又新なる暗示を得たり。

樂家が內部より得たる材料によりて作られし曲と外部より得來りしものによりて作られたる曲とに差異ありや？

ベートーヴェンとショッパンが曲中に顯はるる著しき差異は即ちそれなり。ショッパンの曲はその孰れを問はず渠が强き個性の發現ならざるなし、されどベートーヴェンに至りては恰も沙翁の劇曲に於けるがごとく、容易に作者の面影を捕ふる能はざるなり。然るに此の偉大なるソナタにはショッパンが他の諸作に現はれたるよりは其の個性遙かに朧氣なり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

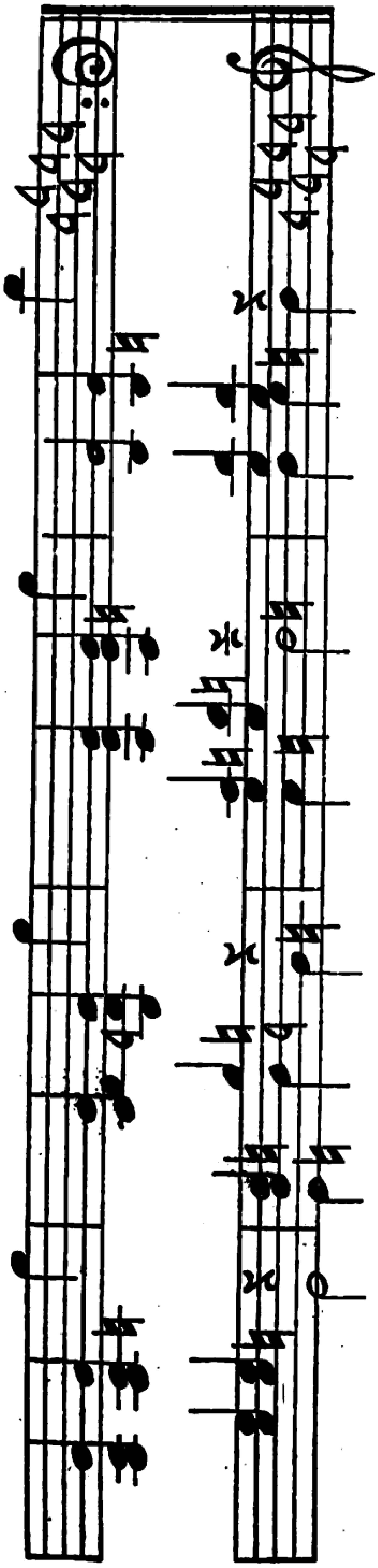
難解は此處に止まらず、時としては作曲者の内部の實體全く外部のそれに合致す、今その最上なる完璧に達したる一例をとりて説明を試みん。左に引照す、ソナタの一節は二種の意義を含有す、そはショッパンが性格の説明にして、聽て自然現象の説明と結合せらる。

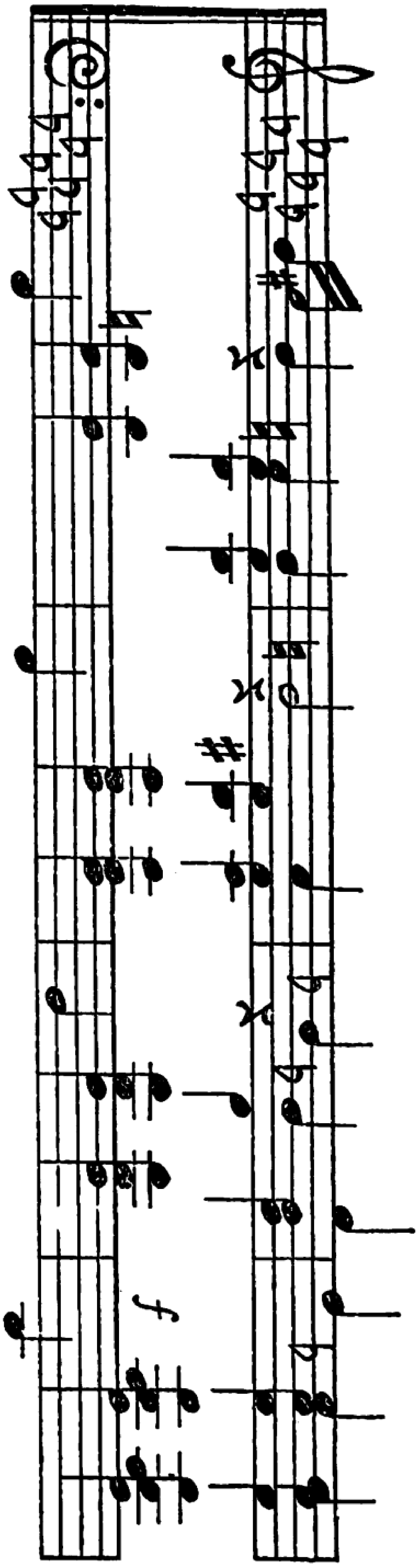


こはショッパンが作中に顯はれ來る特有の施律なり、而して左の自然現象を說明しつつあり、（飜譯にはあらず）

一條(ひとすぢ)の流より水面は水靜かなれど水底に到るに從ひて次第に强き流と變じつつあり。日影惱く、流れを照らしつつあり。水浩く澄みわたり、其處此處に葦長く生ひ茂りて岸邊には曲みたる水の溜りあり深くして小なり此處にも葦茂りて風に戰きつつあり。こは最高音(トレブル)部の施律にして低音(バス)部は暗流を現はしつつあるにあらずや。

ここにまた自然現象と全く交涉なきショッパンが純粹の曲の一節を示し置かん。





これショッパンが作に通有なる渠が純主觀の發現なり。

六月十三日

わが父何事をか思ひ煩らへるが如し、われは明かに其の理由をば知るによしなけれど、わが事のなんとなく打ち混じれるが如く感ぜらる。一度ならず父のわれを恰も患者に對するが如き態度もて打瞶(うちまも)り給ふを見たり。父のわれを監視せること疑ひなし。過ぐる日、母君紅の芍薬の大なる花瓶を携へわが室に來給へり。われはそを一目見るより、わななきぬ。恐らく緋の衣服を思ひおこせしなるべし。されど花の色はかの衣のそれのごとく強からず重く沈みたる方なりき。其の時わが父も傍にありて、われを熟視しつつありしが遽かに室を去りぬ。

そはすべて何物を意味するにや? 人々は今はわれに言葉をかくること少なく、われに

關し何等かの默契の成立てるがごとし。

よし、なるがままにまかせ置かん。今は只音樂あるのみ家庭の表面に起り來る瑣末なる生活とわれは次第に交渉なきに至らん。

ああわれはわが全力を盡してわが作を完成すべし、少なくとも此の月の終りまでに。何物もわれを障ぐる事能はざるべし。われは如何なる故障にも耳を藉さざるべし。わが全身の脈管波うちつつあり、われは全てを挺(なげう)ちて倒るるまでペンを離さざるべし。われを置きて何人かよくかくの如き作を大成するものぞ。

恐らくは? さもありなん。そは今にしてわれの顧る處にあらず。

六月二十八日

朝まだきにわれはオックスホード街を散歩しぬ。日は家々の窓に照り渡り、種々なる色彩を模様の强き印象をわれに與へぬ。わが心は只樂の流れあるのみ。奈何なる物體を見るもその誠の形をばわれは見ること能はず。ただその色と形により各異なる音をわれは感ずるのみ。

とある店の大なる窓に樣々なる色の帽子打並べるを見たり。われの帽子なりと氣づけるは暫時の後の事なり。初めわれは種々なる圓き形の物わが眼に映じ次で各種の音色を耳に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しぬ。行く處樂音ならざるなし。われは樂を離れて何物をも見る能はず。何事をも考ふること能はざるなり。

またとある店に眞鍮の棒の幾重にも離れて置かれたるを見たり、その棒には間を置きて手袋の如きもの懸れり、われは此處にも暫時(しばし)立ちつくして眺め居たりしが僅かに線と色とを朦ろげに見ることを得しのみ、自餘は諸音の響きのみ。ああわれは狂せるにや? さなり今日は少なくとも音樂狂(ミユージツクマツド)なり。

大作は殆んど完成せられぬ。午後わが腦裡に浮み來りし二個の施律あり。かの帽子と手袋の仕業にてはよもあらざるべし。

六月卅日、午前二時

われは遂にわが作を完成しぬ。わが耳を聾する許りの大音響いづくともなく聞ゆ、われは全曲の一點一劃をも聞き洩らすことなし。勝利(トライアンフ)なり、疑ひあるべからず。われはわが周圍の物體を殆んど識別すること難し。わが官能は全て聽覺に集中せられたりと覺ゆ。われは心興奮(あがり)り、沈めんと欲するも能はず。卓上に草稿(スコア)あるもわが眼はそれに觸ることなくただ――管絃樂(オーケストラ)の漸進(グラディエーション)と肉聲の次第に高まりゆくを聞くのみ。

われは全身光を浴びつつあるセヴエラインが頭と肩とを見たり――されどそは刹那に消

え失せぬ…………

ああいかに諸音の澎湃たることよ、莊麗なる歌よ！　ああ　高く高…………われは最早

肉聲と樂器とを識別しがたし………（未完）

野　枝　譯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛と結婚（續き）――エレン・ケイ著――

一　性的道德發展の過程

四

新性的道德の要求は武士道時代に同一問題内に起つた要求と奇異な類似點と非類似點とを示してゐる。斯くて戀愛の法庭（コーツオブラブ）（譯者註、第十一世紀から第十三世紀の終り迄佛國の南部、伊國の北部などに勢力を占めた一流の詩人 Troubadour の隆盛時代 Provence――佛國の南東部の古州――に開かれた戀愛事件處決の法庭）は結婚と戀愛とを相互に單獨孤立的なものとする主義を固守した。然るに一方に於ては、人格といふ概念から自然と結婚に於て其相手の一人に對する心靈と官能の憧憬なき以上、その結婚生活は多數の人にとつて厭ふべき者とする一致和合（戀愛と結婚の）に對する欲求が起つた。武士道時代はその戀愛觀念に於て新時代を無視したが、現代は是に反し戀愛を通じて恰もその當事者自身に於けるが如く、種族をも完全にすることを望んでゐる。

又新道德は人格的戀愛を夢想する資格さへなき多數の人々に對しては、婚約の權利を否

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

認しない。何故なら結婚は少くとも彼等の貧弱な生活に家庭の興味と親子關係の歡樂とを貢獻するから。併し新道德も戀愛の經驗若しくは直觀を有ちながら、彼等自身の生命のみならず確になほ多くの生命を萎縮せしめ、又時に破滅に至らしむる戀愛なき結婚に入つた人達に對しては斷じて假借せぬであらう。とはいふものの手加減といふことが個人個人の場合に於ては寛大な判斷を勸告するかも知れない。何故なら大多數の人間が、もし全く彼等自身の心を知ることが出來るとすれば、それは生涯の終りのことなのだから。併し重ねてここに斷言する、主たる道德原理としては結婚と戀愛との一致和合が飽くまでも主張されねばならぬ、と。理想を創造する力と、其結果たる幸福に對して、常に增大しつつある要求とによつて、人間はその靈的要求の本能を深めた。そして今や其同じ理想の力は無慈悲にも性的道德の外的支柱を倒し、それに代へるに一致和合の觀念をもつてする。これがため跛者が其の拐杖を奪はれたことは、跛者を越えて、より美しく、より健康なる人間を將來に期する者にとつては何の蹉跌にもならぬ。

一致和合の觀念の中に、只この一致和合と、戀愛が生んだ兒童の權利とを毀損しない條件さへ眼中に置けば、萬人がその個人的必要に從つて、自己の性的生涯を形づくるの權利を含むことは眞實である。斯くの如くして戀愛は益々個人の私事となり、同時に兒童は益々社會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の事業となる、そして其結果として社會が認容した性的區分の最劣等の二表現たる强制的結婚と賣婬とは漸次不可能なこととなるであらう。何故なら一致和合の觀念が勝利を得た曉、彼等は最早人性の必要に應じないであらうから。

强制的結婚なるものは、その結婚の下にあつては同棲道德と兒童の權利が同棲の形式によるのみならず、配偶者の一方に對する離婚の可能は他の一方の意志次第といふことを意味する。次に賣婬なるものは、それが男女のいづれによつて行はれやうとも、止むを得ざる必要、若しくは愛好から、結婚により或は結婚によらずして其身を賣る他性とのあらゆる賣買を意味する。强制的結婚にも賣婬にも共に野卑な形と上品な形とがある。眞の戀愛なき所謂「戀」に等級があるやうに、戀愛なき結婚に階級がある。例へば一方「椿姫」又はロスコルニコフの「ソンジア」と他方穢しき漁色漢との間には大きな距離がある。と同樣に母たらむとの憧憬から婚約する婦人と贅澤がしたさに婚約する婦人との間にも、又仕事の上の仲間を求める男子と只債權者の信用を得むがために妻を望む男子との間にも距離がある。併し肉體の一部をもつて、飢渴と負債、寂寞と欲求から離脫せむとする人はいづれにしても、たとへそれによつて獲得する價値がそれ自身いかに偉大であつても、なほ其取引は萬事を全體として觀察する性的道德の見地からは賣手にとつても、買手にとつても

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

等しく一つの屈辱である。

戀愛的人格の意識發展は現代に於て、社會によつて定められた道徳と、社會によつて取締られてゐる不道徳とによつて同程度に阻害されてゐる。前者主張の問題にせよ、後者許容の問題にせよ、我々は理想なるものは現實生活の必要に對しては讓歩せねばならぬといふことをきかされてゐる。若し飢渇に於ける偸みの權利が「現實生活の必要」なる名義のもとに宣言されたなら、社會を破壞することを正當に恐れるその同じ人が、貧困よりも更に更に重要な問題といふ譯で、賣婬の形式に於ける偸みの權利の必要を宣言する時にあたつては自から賢明なりと考へる。

現實生活は確に次のやうな權利を有つてゐる。即ち其一つの場合は、食に飢えたる人は皆喰へるだけの賃錢が得られる仕事を有つべき筈であり、他の一つの場合は婚期に達した人は皆、正當な時に於て婚約し得べきだといふことである。併しこの權利が得られる前、是非とも起らねばならぬ改革も社會が――賣婬は必要な惡事だといふ假定のもとに――賣婬の結果を監督し、かくすることによつて其危險が豫防されるといふ妄想を抱く限り、現はれないであらう。何故なら斯くの如くして社會は戀愛と飢渇なる根本的二要求に對して、現時その滿足のために、多數の男女に唯一の手段を供給する賣婬よりも、もつと勝れたる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のを供給するところの方法を探求しないから。

且又是等の改革は社會が――結婚は必要な善事だといふ假定のもとに――結婚を性的關係に於ける唯一の道德的目標として保つ限り現はれないであらう。

この狀況に就ては、弊害に對する唯一の治療法は一夫一婦制の要求の一層嚴格な主張にありと自信する道德說教者達が其責を負ふべきである。彼等說教者は豐富なる種々の經驗や、幸福に對する憧憬や、人生の歡樂に就いて記されたるものを恐れてゐる。彼等は或一個人の魂に對する義務と責任と、社會に對する本分の外何物をも揚言しない。併しこの事は基督教の初期から絕えず說かれてゐたのだ、しかも全體として性的道德の標準は以前より少しも高くなつてゐないではないか。これは確に反省一番せねばならぬことである。殊に戀愛に對するこの恐怖心が官能に對するかのトルストイの――否寧ろ東洋世界の――厭惡にまで達する時にあたつて、又は結婚が、寧ろ醫藥を不必要とするまでに根絕せらるべき筈の遺傳病に對する姑息手段として單に見做される時にあたつては猶更反省一番せねばならぬ。

* * * * * *

心理現象が物理現象ほどに研究の歩を進めた時、戀愛も亦戀愛波動學の影響を蒙るであらう。我々は幾世紀を貫く感情の屈曲、その起伏の運動、それを決定する反對の力と側面的勢力とに從ふであらう。現代に於てかく高められた一つの波は社會が保護する不道德に對して次第に增し來つた靑年の憎惡と獨身生活に對する彼等の憧憬とである。又それと相對する勢力は戀愛に對する多くの若き婦人の嫌厭である。是等の男女は新(ネオ)、新敎(プロテスタント)の僧侶達の如く、肉欲は結婚によつて聖化されねばならぬと望むことを以て滿足しない、即ち彼等は肉欲を殺すことを望む。彼等は單に戀愛から離れた欲求を惡むのみならず――それは尤なことだが――戀愛が靈肉の一致として現れる時すら、戀愛それ自身を賤しむ。彼等に從へば結婚とは單に、出產と育兒とに向けられた義務觀念を以て結ばれる同情的友愛の最高なる形式であらねばならぬ。結婚が個人的幸福の要求から離れると等しく肉的快樂の念からも離れる時、結婚は全くその子供の爲めに生活するの義務と歡喜とを有する二友人の結合である――その時こそ結婚が始めて彼等にとつて道德的なものとなるのであらう。

是に反して、靈的同情の統合及種族の生命として、又それによつて人間生活を高上、美化する活力として取扱はれる戀愛は彼等にとつては無價値である。そして男女間の性質の差別に關する觀念も亦彼等にとつては無意義である。彼等は結婚以外の男女の全然接しな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いことを要求する。しかも結婚内でも彼等は只、自然の装置が未だ不完全な今日、種族繼續のため止むを得ざるところの極めて僅な例外を許すばかりである。科學の進歩と共に、彼等は、恰もウベールネル、ホン、ハイテンスタムが飢渇による墮落を遁れむがためかの「食物粉」を賴みとしたやうに、化學や、生理學が人類を戀愛に於ける墮落から離脱せしめることを望んでゐる。恐らく彼等は共に正當なことであらう。併し廿世紀の人は是等の可能性と何等の交渉もない。現代に於て我々が望むところのものは寧ろより多くの戀愛である。より多くの食物である。より少くすることではない。

それ故に如上少しく論じ來つた議論はどうも性的道德の發展に伴ふものではありさうもない。といふものは今日既に大多數の人は戀愛問題に於て、前述の純潔の理想の實現を許すにはあまりに頑强なることを自ら示してゐるから。如何なる目的の考も彼等の心に戀愛を離れては醜きものに思はれる手段を是認しないであらう。

且又義務の觀念のもとに生を受けた兒童は人生本然の狀態を多く奪ひ去られるであらう。就中兒童に對して重要なる精神的滋養物を與へる溢れむばかりの生命と輝かしい幸福とを彼等はその兩親の上に見出さないであらう。しかのみならず、全然兒童の爲にのみ生活する兩親は實は兒童にとつて善良な伴侶でないことがその上附言されるかも知れない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ここに說いた道德の次第書は社會が保護する不道德に對する正當な憎しみと、一部は兒童を度外視する戀愛に對する正當な憤りから說明される。併し個人の要求と種族の要求との間に存する戀愛最深の爭鬪に就てのこの解決は自然の意志並に文明の狀態に有害なものである。此の二動因に係りなく、是等の熱狂者は性的關係が常に實在に須ひする不純と醜に悩まさるゝが故に心惹かるる純白の清淨界に到達し得るものと信ずる。彼等は雪線以上には只生命の最も稀薄なる形體のみ榮え得ることを忘れてゐる。併し人類の發展なるものは常により豊富なる、より强壯なる種類の形體の產出に向ふ。官能から道德を分たうとする如何なる企圖も發展を促進せざるのみならず、却てそれを妨碍する。何故なら官能の土壤から他の土壤に性的感情を移植することは現代の浮世の狀態に於ては不可能のことだから。

無感覺――又は超感覺――を志す純潔の要求は或は小危險を防ぐかも知れない。併し大危險に於て、それは森火事に逆ふ雛の如く無益なものである。肉欲を抑へることをせず、反他の方向にそれを解放することによつてのみ眞に肉欲を純化し得るのだ。情緒はひとり、より强き情緒の手段によつてのみ制し得られる。危險を宿すその同じ肉欲や情緒の中に、戀愛の本能それ自身の中に、我々はそれを高める爲の眞正の發足點を有つてゐる。この本

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

能の破壞を燻然に欲求する人は、破壞せむとする情熱それ自身の中に彼が不自然の目的に到達するの見込みを所有する。又性的本能を殺すことを願はず、寧ろ只制御せむことを希ふ人は、只戀愛に於て、戀愛と結婚の一致和合を想像しかくて終にそれを經驗するに至つて始めて、制御せむとする欲求――この欲求は常に因襲及社會的風習を通じて限りなく强められてゐるが――に對する彼の奮鬪に於て意氣揚々たる一個の勝利者となる。尙又性的本能制御に關する補助的方法が見出される。それは何よりもまづ第一に兒童が兩親から貞操の本能を得ること、少年時代を强壯にせられ、柔弱並に硬心に過ぎる危險を防がれること、性的運命の大目的や大危險に就いて上品な穩な方法で敎へ込まれること、輿論を通じて自制の可能なることと個人自身の幸福にも、種族の幸福にも自制の重要なることを感銘すること、享樂の手段の濫用を避けること、特に自餘一切の種類の誘惑に於けるごとく性的場合に於ても直接又は間接に意志力を弱める過度の飲酒を避けること等である。高尙なる遊戲、舞踏、競技等が――是等のものは心身を以て美しくしかも有價値に行はれたる時のみ高尙である――性的本能の置換及制御の一手段たることは論ずる迄もない。肉體的若しくは精神的勞働が、單獨に企てられても、又或は社會的努力の何等かの形式に於て協同事業として企てられてもいづれも代用の形に於て性的勢力を使用し放散

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

するが故に大切なものだといふことも亦確實である。一切の純正なる藝術的享樂は性的生活高上の爲めに最も重要なものである。併しあらゆるこの自己鍛錬も、美と勞働の世界からのあらゆる是等の助力も、强くし、美しくするあらゆるこの體育も世人が戀愛――道德の或說敎者達が恰も一つの危險又は誘惑であつたかのやうに、全然問題外に見捨てたその戀愛の方向に總てを導かない限り、中心點なき線條の如きものであらう。設令戀愛を全く無意味なりとする人も、人生の健全なる習慣や、嚴肅なる自制が個人を高めることを敢て否定するものは誰れ一人としてない。併し全體としての人生は難行苦行に身を疲れ果たすことや、乾燥無味な讀書や、露骨を避ける藝術等によつて官能を一時眠らせることに於て成功した無情な、否寧ろ惱ましき禁欲主義者の典型を產出するの外何等の得る處もない。彼等が自ら人生を喜ばないやうに、人生も亦彼等がいふところの「高尙」なる自然の守護者たるこの峻嚴の徒をあまり喜ばない。我々が若し種族にとつても等しく必要な、他の優秀なる性質を堵してまで禁欲を遂げる青年を有つなら、我々の得る處は僅少である。大なる進眼革をもつて、官能の觀喜と、人生の種々なる快樂と、空想の易動性とを避ける靑年、一切の靈的冒險を缺く靑年はいかほど總てが「純潔」であつても、人生に於ける骨董品ではあるまいか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

是に反して性的生活の多くの誘惑を保持し、しかもそれを抑制する人々は——たとへ彼等の抑制が常に完全なものでなくとも——實在に無限の偉大なる奉仕を致すであらう。

最初基督敎によつて養成された偏見——性的純潔は自餘の一切を犧牲にしても惜しからぬまで人生に於て偉大なる資産なりとするこの偏見が征服せられねばならぬ。人は性的純潔に關しては只彼自身と種族の爲に人生の目的即ち絶えずより高き生活に導く目的を達せしむる上に適當なる程度に於てのみ尊重すべきである。彼の純潔が若し彼及彼を通じての種族、生活の悦樂、勇氣及及力の回復しがたき損失に價するならあまりに高價に過ぎる。

しかも現代に向つては——幾世紀に亘る結婚と敎養の結果、現時の人間、特に男子の性質が一變せざる限り——純潔の要求は、辯言すれば若しこの要求が新、新敎徒の信仰、否、それ以上、トルストイの信仰の形をとるなら斯かる損失なき實現は許されぬことであらう。

（未完）

らいてう譯

未來の王國（つゞき）――アナトール、フランス――

やがてミシエルは高臺の上に建つて居る小綺麗な邸宅の庭前に降りた。
「漸く着いた、ここが僕の住居だ、汝は僕のように統計學に趣味のある仲間の者と一緒に晩飯を食つたらよかろう」
「何ですつて？ あなたが統計學者といふんですか、私はあなたをパン燒きだとばかり思つて居ました」
「僕は一日に六時間丈パン燒きに從事して居る。これは一世紀前に聯邦委員會議で議決になつた一日の勞働時間であつて、誰でもこの間を他の事に費すことは出來ないのだ、しかしその他の時間は全く統計の研究に費して居る。この學問は最近に史學の領分に侵入したもので、昔の歷史家は二三英雄の、赫々たる行爲を傳ふるに過ぎなかつたのであるが、現代の歷史家は生產消費の有らゆる現象と事實とを記述しなければ止まない。」
こんな事を話しながらミシエルは私を電氣燈の明かるい食堂に案內した。よく見ると電

氣の光りは非常に強くて眞つ白に見える。美しく彩色を施した陶器製の食卓の上には、滿開のオランダ苺の模様を表はした彫刻物が飾つてあるばかりで、金箔を附した皿が澤山列べてあつた。そして三人の人が席に着いて居た。

ミシエルがこれらの人々を私に紹介したのを聞くと、モレン、ベルスバル、及びシエロンと云ふのだそうだ。

これらの三人は一様に荒い紬のジヤケツと天鵞絨のズボンを着け、灰色の靴下を穿いて居た。モレンは長い白髭を蓄へて居たがシエロンとベルスバルは若々しい顏付きをして居る、その短い髮の毛と快濶な容貌とは若い青年のように思はれるが、實際に於いては二人とも女であることを確め得た。ベルスバルは美しい方であるが年齢はそんなに若くはないらしい、だからシエロンが最チヤーミングだと思つた。次にミシエルは私を紹介した。

「僕は仲間としてヒポリーテ、別名デユフーヌを君等に會はせる爲めに連れて來た、彼はアフリカ合衆國の野蠻な黑人種の間に住んで居た、彼は十一時に飯を食はなかつたから、大に空腹を感じてる筈である」

私は實際飢えて居たのである。彼等は肉を細かく正方形に切つてくれた、その料理法は珍奇なものであつたが、そんなに不味いとは思はなかつた。いろ〳〵のチースが卓の上に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

置いてあつて、モレンは輕いビールを注いでくれて思ふ存分飲んだらよからうと進めてくれた、がそのビールはアルコールを少しも含んで居なかつた、

「これは結構です、私はあなた方がアルコールの害を警戒されたのを喜びます」

私がこういふとモレンが答へた

「アルコールは現今殆ど存在しません、二十世紀の終りに全然社會から驅逐せられてしまひました、そうでなければ酒好きの下級の人々は到底解放するに餘地がないので、新らしい王國を建設する事は出來なかつたのでせう」

私は面白い肉の片を味ひながら更に尋ねた、

「あなた方は食物を作らないのですか」

「あなたの云ふところは化學的滋養分の事なのでせう、その方はまだ餘り進歩して居ません、吾々が化學者を臺所に雇ふのは殆ど無益のことです、」

「現代の化學者は食物の理論的系統を立てることのみに苦心して居る」

ミシエルが傍からこう口を添へた、すると若いシエロンがまた茶化すように云ふ

「そんな事は如何にも子供らしいことですネ、人間が大腸といふ無益有害のものを持つてる間は、とても傳染病などが妨げるものではありませんもの」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こういふ風に彼等は私の人格を認めて、懇切に話をしてくれたけれど、私は彼等の態度や思想に合せる様に話すことが出來なかつた。私の方で禮儀を守ると却つて益々彼等の同情を退けるように見えた。遂には心からシエロンにお世辭を云つたのに、彼女は見向いてもくれなかつた。

食事が終つてから私は、モレンに哀願した。

「モッシユウ、モレンよ、私は何事も解かりません、私は智惠がありませんからまことに困つて居ります。繰り返して申しますが、私は隨分遠方から參りました、どうか、どうして歐洲聯邦が成立したものか、現今の社會は如何なる狀態に有るのか、話して戴きたいと思ひます」

老人のモレンはこれを遮ぎつて

「あなたは私に三世紀の間の歷史を話せといふんですか、そりやどうして數週間、否數月もかゝらなければ話しきれやしません、その上私自身にも知らないこともあつて、到底完全には解からないでせう」

私はそこで已むを得ず小學校の子供に敎へるように、極めて簡單な筋書丈でも話してくれるように賴んだ、彼は安樂椅子に身を投げて、得意氣に語り出した

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「現在の社會が成立した事情を話すには、遙かの過去に遡らなければならないのです、一體二十世紀の最大なる功績は、戰爭の廢棄であります。ヘーグの萬國平和會議は、野蠻時代に出來たものであるから、平和の維持には殆ど役に立たなかつたのです、しかしその時も一つ他の會議が起りました、それは各國の議員の代表者が相互に交際してる間に、國際關係の事を議するようになり、その撰擧民達が平和を熱重したので、議員達の決心が漸く固くなつて來て、政府に反省を促したのです、その內で最も頑固な露西亞のような國でさへ人民の意向を輕んずることは出來なくなつた。しかし驚くべき事には、かゝるすべての國の委員連の會議は、始めのうち特別にこういふ問題を議する積りではなかつた。のみならず依然として五六の强國內には、暴力の團體があつてこれを左右して居たのです、佛蘭西もその一つでありました。そして歐羅巴の勢力均衡の關係上舊時代の王朝戰爭の起る恐れがあつた時、靑い毛布を掛けたテーブルの周圍で外交談判を開いたと同じ樣に、その時も商工業上の利害關係から戰爭の起ることを恐れて居た結果こういふ會議が屢々開かれたのです。不完全な組織を持つて居る平民達は、その勢力をも自覺せずして、國民の間に軍備上の競爭を怠らず、時としては戰爭さへ辭せなかつた程でしたが、その度數と期間は餘程短かくなつて來ました、かようにして最後の戰爭は殆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

民政策といふ舊世紀の發狂的動作から起つて、英、露、獨、佛、及び米國が、アジアやアフリカの殖民地で、勢力圏獲得の爭ひを起して、殺戮し合つた結果遂に土人との間に經濟的關係を樹立しました。そして彼等はそこの有りと有らゆるものを破壞し盡したけれど、これら貧しき殖民地は、本國から莫大なる補助を受けねばならぬ上に、比較的豐饒なる土地は悉く獨立してしまひ、遂には歐羅巴人の影響を受けて發達した、日本と云ふアジア東方の一小國を尊敬せねばならぬようになつて來たのです、こんな次第で日本はこの野蠻時代に人道上、大なる貢献をしたのです、最後に殖民政策の嫌惡すべき時代が過ぎ去つた時は、已に戰爭といふものがなくなつて居た、けれども各國はなほ依然兵備を怠らなかつたのです。

この話はこゝまでとして君の要求に從つて、現代社會の起源をお話しゝませう。現代は最近の時代と道德上、並びに個人生活上互に密接の關係を持つて居ます、二十世紀の始めに驚くべき產業上の革命が起り、自分の腕で自分の機械を運轉して居た、小工業家は資本といふ不可思議の力を持つた、新らしい實業家に征服されてしまひ、いよ〳〵社會上の大進步が起つたのです」

「社會上の大進步つて何ですか」

私がこう鸚鵡返しに口をはさんだ、すると彼はなほも言葉を續けた。

「この資本の王國は人道上限りなき富源となつた、それは勞働者を非常に澤山集めた結果、一種の平民階級を作り、遂にこれらの勞働者は國家のうちに澤山の團體を組織し、この團體は各々その解放のため、いろ／＼の計劃をなし、しまひには勢力家を轉覆しようと云ふ希望の下に資本を集め出したのです、この王國は勞働者が、多く犧牲に供せられたので、未來に於て幸福な結果を齎すべきところを、却つて勞働者側から呪咀されるようになつてしまつた。その上この王國は始めの內全世界を富ます傾きがあつたのが、漸次それを破壞しなければならぬ破目になつて來ました、それは生產を極度まで擴張した結果、それを整理する事が出來なくなつて、所謂生產過多の苦境に煩悶するようになつたのです。君も多少は二十世紀の末葉に於けるこの經濟的擾亂に就いては知つて居るでせうが、最後には生產の無秩序のみならず、競爭が激しくなり資本家と企業主とは大規模の合同を計劃して生產を整理し、競爭を絕滅しようと努力したのですが、それは徒勞に歸して遂に階級戰爭を起し、次第に勞働者に利益を占められ、賃銀の値上げ、勞働時間の短縮、等が着々實行されて來ました。

次に常備兵はこれも漸次廢せられて、國民軍がこれに代るようになり、要塞は次第に共

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

和國と改まつたのですが、獨り英國はその政府が餘程自由主義に出來て居たのでそのまゝに、露西亞は飽くまで頑固に帝國主義と政敎一致主義とを維持して、この大革命に加はらなかつたのみならず、ツアールは新らしき歐洲共和國に兵力を以て、干渉すると云ふ風說もありました。しかしツアールの政府は時勢につれて、だん〳〵薄弱となつて來て、最後に露西亞の人民は、學者と同盟して政府に反抗し、恐ろしい虐殺のあとで遂にこれを顚覆して共和政體を建てたのです。無線電話と無線電信とが、歐羅巴の隅々まで行き渡つて、どんな貧民でも思ふ時に地球のどこに居る人々とも自由に話をする事が出來るようになり、無智矇昧な露西亞の百姓等でさへ、ベルリンやマルセーユの人々と、寢ながら話をしてその思想を豐富にし、同時に飛行機や飛行船が正確に實用に供せられるようになつて、國境といふ觀念がなくなり、愛國心に影響を及ぼし、とう〳〵全歐洲に國王も貴族も軍隊もなくなり、佛蘭西共和國、獨逸共和國、匈牙利共和國、羅馬共和國、伊太利共和國、瑞西共和國、白耳義共和國等は、各々その議會に無記名投票によつて、代表されその領土と商工業とを保護するため連合して飛行機を利用して密輸入をする者や、無線電信を濫用する者を取締る緊急勅令を發布しました。」

「それや大變な革命ですネ！、これまでの歷史にはそんな事實は見ない事でした」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「まアこんな事で、委しく話せば限りないことですから——。昔佛蘭西革命の時唱へられた、自由、平等、博愛、など云ふことは、新らしい社會に於いて實現することは、非常に困難であります、一體自由といふものは自然にも、社會にも存在しないものであつて、自由な動物なんてものは何處にもありはしません、以前は法律に從順なるものは、自由であると云はれてましたが、なんと兒戲に類した事でせう。また平等の觀念程不合理なものはないと思ひますネ、人間は男女、强弱、賢愚等少しも一定したものでありません、けれども吾々は彼等の間に、平等の權利があるとないとには何等の意義も認めて居ません。實際必要なのは各々その天賦の性質を、最完全に發揮し、また各々その生活に必要なものを受ける事です。博愛といふことに就いては隨分八釜しく論ぜられたものですが、吾々は人間が性來惡いとも善いとも云ふのではないが、人間は人間であつて彼等は平和に生活すべきもの、お互に爭鬪する理由はないはづです。吾々の社會組織を表はす唯一の言葉は、調和といふ言葉であつて、現代はすべての人間の力が調和して居るのは全く事實です」

「それでは舊時代には所有權といふものがあつて、子孫に財產を相續させたものですが今はどうですか」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私が突然こう云ふ問を發したら、モレンが興奮したやうに云つた。

「舊時代に相續が行はれたと云ふけれども、實際財産を殘したといふ者は、千人に一人位の割しかないのです、兎に角これは家族といふものが存在して居て始めて相續といふ事も行はれるもので、今は………」

私は驚いてこう云つたのが、側らに婦人のシエロンが居たので、甚だ滑稽に見えた。すると今度はシエロンが

「エヽ今はどうだつていふんですか、あなたは家族をお持にならないのですか」

「私どもは結婚といふものが、カフイール人の間にのみ存在してるものだと確信して居ます。私ども歐洲の婦人は、契約によつて自分を束縛することは致しません、もしかりにそういふことをする者がありましても、法律がこれを認めないのです、私どもの考へでは、人の一生の運命が、一つの契約に囚へられるものとは、どうしても思はれません。しかし多少舊時代の習慣の遺物がありまして、婦人が男子に身を委ぬる時には、月に對して誓を立てるものがあるのですけれど、こんなことは全つきり意義を失つたもので、實際男子も女子も束縛的の契約なんかは致しません、ですがその結合の一生涯續くことは珍らしく御座いません、誰しも肉體上、精神上の便宜を度外視して、つまらぬ誓のた

めに契約の犠牲にならうなど〻欲するものはありません。私どもは誰にも義務を負ふはづはありません。以前に男子の方は婦人を、その所有物かなんぞのように思つてお出でしたのですけれど、私どもは人間といふものは自己のみに屬するものと信じて居ます、私どもは自分の好み、自分の適當と信じた時に身を捧げるのです、そして私どもは慾望に從ふことを決して耻とは思つて居ません。私どもは僞善者ではありません。ピポリーテ樣。カフィール人は何といふか知りませんが、社會はどうしても自然に從はねばならないものだと思ひます。今までは自然を枉げて社會を作つて居ました。」

するとペルスパルは始めて、シエロンのこの言葉を引き取つて喋べり出した。

「あなたに私どもの社會の性的關係がどんな風に行はれて居るかを、實例を擧げてお話して見ませう。大抵の工場の募集員は、應募者に男女の區別を尋ねるような事はありません、私どもの社會では男女の區別は殆、意義を認めて居ないのです」

「ところで子供は？」

「エ丶子供ですつて？」

「家族といふ觀念がなくては、子供達は顧られないではありませんか」

「あなた、どういふ處からそんな考へが起りました！。一體母の愛は婦人に取つて一番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

烈しい本能です、舊時代の僞善に滿ちた社會では、母といふものが私生兒など育てる時には、非常な耻辱と、不幸とを感じたものです。また實際そうなのです。私どもの社會ではどうしてあの幼い子供を見捨てる者がありませう、實際に於いても澤山に善良なマザーがあります、しかし大抵は男子と共同して子供を育てる者が多ふ御座います」

シエロンがまた妙なことを云ひ出した

「私どもは性の特徵に關して舊時代の野蠻人が夢にも想像しなかつた意見を持つて居ます。長い間男女兩性のみが、この世に存在するものといふ誤解がありまして、女子は絕對的に女性であり、男子は絕對的に男性であると考られて居りました。けれども實際に於いては、そうではなくて、女子のうちにも女性的の特徵が多いものと少ないものとありまして、その差は誠に著しいもので御座います。この差は舊時代には風俗や習慣に蔽はれて、あまり目立たなかつたんですが、現在では大層目立つて參りました。それから女子のうちには男子と同樣に働いたり、考へたりするものと、また容貌が男子そのまゝのものとがあります、ですから將來は中性の人間が出來ることは疑ひない事でせう。現に蜂の社會にはこういふ中性のものがありまして、大に便宜を得て居るのです。これは人口の激增を防ぎ却つて仕事の種類を多くする利益がありまして、是非そうならなけれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ばならぬものと思ひます。」

私はペルスバルやシエロンにこんな興味のある話を聞かせてくれたのを感謝し、更に敎育がこの新時代に普及してるかどうか、また思索的の學問や、自由な藝術が隆盛であるかどうかといふ事を尋ねて見た。するとモレンが直ぐに私の問に應じた。

「敎育は有らゆる種類を通じて、非常に發達して居ます、殆ど一技一藝に達してないものはありません。そして大抵は異なつた智識を持つて居て、一人として無益な學藝を心得て居るものはありません、舊時代には法律や神學などを研究したものもあつたが、最早不道德や犯罪を行ふものはありませんから、そういふ學問を研究する必要もなくなりました。今の人々は各々その最適當したところの學問や藝術を撰んでするのです、今でも昔の著書が澤山殘つて居るけれども、大方はなくなつてしまつたのです。そして活版といふものもう過去のものとなりかけて居て、速記法が次第に發達して來た、で詩人や小說家は、大抵速記法を用ゐるようになりました、」

「今でも詩人や脚本家があるのですか」

「そうですとも、詩人があるばかりでなく、新時代の詩も出來て居ます。一體舊時代には散文で書いた方がいゝ場合にも、殊更にそれを詩に縮めた事がよくあつた。物語や歷

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

史までも、韻文で書いた事や、また甚だしいのは法律の條文や、日常の受取證でさへこれを應用したものです。こんなに詩を濫用するのはよくないです。今では微妙で云ふに云へないような場合の外は韻文を用ひない。演劇の方では大低は抒情詩的のものであつて、人々が現實に關する精細な智識を持つて居るのと、亂暴狼藉な振舞がなくなつたのとで、悲劇などゝいふものは殆存在の理由がなくなり、各階級が平等となり、男女が同權となつたので、喜劇といふものも矢張り問題を失つた。しかし音樂丈は極度に發達して、例の抒情詩を歌劇的に演ずることなども甚だ進歩したものです。その他繪畫、彫刻等もこれに劣らず發達して、個人の住居にまでこれを施したものが決して少なくはありません、論より證據、先づ飛行機に乘つて街の上を飛んで見給へ。博物館の多いのにはきつと驚くでせう、」

「要するにあなた方は現代を幸福だと御考へになつてるんですか」

モレンは頭を振つて

「人間が完全な幸福を享ける事は何れの時代にしろ達せられない事です。幸福といふものは努力なくして得ることは出來ません、そして努力には必ず疲勞と苦痛とを伴ふものです。だから吾々の子孫はだん〳〵幸福にはなつて行くでせう、五十年前と今とは己に餘

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

程異つて來ました、觀察の鋭敏な人は將に大變動が近づいて居ると云つてるんですが、それはどうだかわかつた事ではありません、しかし文明の將來は漸々調和的に進みつゝあるのは事實です」

「では反對にあなた方は現に安心してお出になる文明が野蠻人の侵入によつて破壞される心配はありませんか。アジアやアフリカには黃色人種や黑色人種が多數に居て、彼等はあなた方の社會とはまるで一致しては居ません。彼等は軍隊を持つて居ますのにこちらではそれがないではありませんか、萬一の時はどうなさるんです」　（未完）

——五月十九日——

淺野友譯

新らしき幸ある國へ（二）―シエンキウイッチ―

乘組の人達は蜂が巢から出るやうに船から群れて出た。狹い昇降口に群れて甲板の上に幾つかの塊りに集まつた。先づ一等客、それから二等客、一番終ひは下等の客がその荷物と一緒に乘せられた。ロレンツとメリーは群集に押されて出口へ來た時にカシユツプは二人を見附け出して、緊くロレンツの手を握り〆めながら云つた。

「我が友よ、貴方の上に幸あるやうに。それから御孃さん、貴女の身も神よ助け給はん事を」。

「貴方の上にも神の惠あらん事を」。と二人一緒に答へたがもう之れ以上物を言ふ暇はなかつた群集は昇降口を上へと大きな塊の中へ二人を押して終つた。

乘客取扱の船員が銀の札を一々人々の荷物につき付けて見て「よろしい」と云つて出口の方を指して見せた。そして人々は市街の中へ出て來たのであつた。

「御父さん、さア何うしましやう」。メリーは尋ねた。

「俺達(わし)は此處に待つて居なければならないんだ。政府の官人(やくにん)が私達に賴みに來るんださあの獨逸人は云つた」。

で、二人は塀に凭りかゝつて立つて、其周圍(まわり)を取りまいてる名も知れぬ大きな都會の音を聞きながら役人を待つて居た。二人は見るもの皆未だ曾て見た事のないやうなものばかりであつた。通りは眞直に廣く走つてゐて、ポーランドの市(いち)の時のやうに人々が群集してゐた。その眞中には市街鐵道があり、兩側は荷車や馬車や乘合馬車が通つてゐた。四邊(あたり)から譯の分らぬ言葉が聞えて來る。職工や馬車の御者などが互に叫び交わして居るのだ。よく短い縮れ毛の黑人が通つて行つた。それを見るとロレンツもメリーも熱心に十字架をきるのであつた。音や響きや笛の音や荷物のきしる音や人々の叫ぶ聲どなり聲などで滿ち充ちた此の市街は二人の目には不思議なものと映るのであつた。人々は皆、何者かを追ふて行くのか或は逃れやうとしてるかの如く見える程早く通つて行つた。――おゝあの蟻塚のやうなあの人々、あの奇妙な顏――黑いのや赤銅色のやオリーブ色の顏。其處に船渠(ドック)の傍に二人は立つて居た。其處は船が荷物を積んだり下ろしたりして非常に混み合つて忙がはしそうであつた。荷車の響き、運搬車(トロッコ)の吼り立つ音で二人は鋸輪機の響きを聞かされてるやうな氣がしするのであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

恁んな調子で一時間經つた亦一時間も――そして二人は未だ壁に凭りかゝつて役人を待つて居た。

二人の立つてる容子は實に妙であつた――長い灰色の髮で、四角な羊皮の帽子をかぶつた此のポーランドの百姓と、暗靑色の木綿の衣服をまとひ頸のまわりに南京玉をかけた此のリピンツ出の娘と。

けれ共人々は見顧りもしないで通り過ぎて行く。見慣れぬ顏や珍らしい服裝などは紐育の人を驚かすに足りないのだ。

亦一時間經つた。天空は一面被はれて來てみぞれ交りの雨が降り出した。冷たい濕つた風が水の面から渡つて來た。

彼等は尙ほ役人を待つて居た。

百姓といふものは忍耐强いものなのだ。けれども今は稍不安の念が彼の心に兆し出した。――

船の上では知らぬ人ばかりの中にあつて物寂しく感じ、あの廣い海原の上では心怖ろしく臆病になつたのでさつた。此の危險なる海中を迷兒になつた小供のやうに二人を導いて下さるやうに神樣に祈つたのであつた。上陸さへすれば此悲しい思ひは絕えるものと考へ

て居た。さて自分等は目的地に着いた、今此大都會の霧の中に居るのだ。然し此の騒々しい都會に來て見れば船の上に居た時よりも寂しく怖ろしく思はれた。

官吏は來ないのだ。自分達は何うなるのだらう、若し役人が來て呉れないとしたら――あの獨逸人の云つた事が僞だとしたら。

斯う考へて來ると此の哀れな百姓の心は恐れ戰いた、自分等は何うなるのだらう。唯だ――滅亡するばかりだ。

その中に風が二人の衣服を吹き通した、雨はその面を打つた。

「メリー、寒かないか」とロレンツは問ふた。

「えゝ寒いわ、御父さん」。娘は答へた。

又一時間過ぎた事が街の時計によつて報せられた。漸次薄暗くなつて來た。群集は次第に減つて行つた。船渠の勞働者も家路に向つた。大通りの燈火に火が點もされた。大なる燈火の海が市街に溢れた。バッターリー公園は人氣が少くなつて行つた。移住者取扱所は閉じられて居た。

二人は役人を待つて居た。

遂に全く日は暮れきつて、船渠はひつそりとなつた。時々小蒸汽の黒い烟出しから火花

が飛んで暗に消えた。波が石の堤防に當つて碎ける音がした。不圖酔ひどれ水夫が船へ歸りながら歌つてる歌が聞えて來た。街燈は霧の中でゆらめいた。二人は待つて居る。もう待つのを止めやうと決めた所で、自分達は何處へ行く事が能きやう。何うする事が能きやう。何處を向いて行つて何處へ此の疲れた頭を休める事が能きるのだらう。寒氣は鋭く二人を刺し飢餓は氣力を奪つていつた。此の頭の上に屋根さへあつたならば――自分等はもうびしよ濡れになつて居るのだもの。役人は來なかつた。――そんな官吏は無いのだから之から先だつて來やう筈はないのだ。かの獨逸人は汽船會社の切符賣りなので、其賣上高に對して手數料をもらうばかりでその外の事などは氣にかけて居ないのだ。

ロレンツは足が次第〳〵しびれて來た、神樣の御怒りが頭上から押へ付けてるのではないかと思はれるやうな何か重たいものが被ひかぶさつてるやうな氣がした。

彼は百姓でも耐へられぬ程氣長く待つた。そして寒さに打ち震ふ娘の聲に夢から覺めるやうに呼び覺された。

「御父さん」。

「しつかりしろ。私達は何も依るものなんかないんだ」。

「リピンツへ歸り度いわ」。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「馬鹿な事を云つてはいけない」。

「あゝ神樣、神樣」。いと細き聲でメリーは私語した。

ロレンツも悲しくて耐まらなくなつてきた。

「あゝ可哀そうな娘や、せめて汝の身にだけでも神樣が惠むで下さつたらなア」。

けれ共娘は聞いて居なかつた。頭を壁に凭せかけたまゝ目を閉じて不安な病的な眠りに陷つて居た。そして書板に畫かれたやうなリピンツの光景を夢見て、ジヨンの人を嘲るやうな歌ひ聲に聞き入つてるやうであつた。

何といふ美麗な御孃さん、
まア結構な御むすめさん、
御嫁入り道具はと尋いたらば、
たつた菊の花冠ばかりでしやう。

夜明けの最初の光線は先づ水の面に、帆柱の上に、それから移民取扱所の建物の上に落ちた此の薄い光に照らされて、蒼白い顔をした二人の人影が塀の側に雪に埋もれたまゝ、死んだやうに靜として眠つてるのが見えた。けれ共此の二人の悲慘は生涯はまだ最初の頁を開いたばかりなのだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

——未完——

——一九一二・五・二一——

増田初譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

扃ある窓にて ——らいてう——

民衆と政府とは常に相對峙するものである。併し社會に於ける新しきものの出現は兩者をまた常によく合同させる。

新しきものに對する兩者の合同は、たとへそれが一時的のものたるにせよ——それは歴史が證明してゐる——新しきものの出現とその自由發展にとつて、時に侮りがたき禍となる。しかも亦一面より觀れば新生命をして益々自由に、益々活潑々地に、暫時も停滯せしめざる上に、益々力强きものたらしむる上に、時に缺く可からざる壓力ともなる。

我々が曾て植物だつた時、又動物だつた時、我々は自然の壓迫の外、何の壓迫も知らなかつた。

我々が未だ意識的にならなかつた時、敎育といふ美名の下に有意的に、又無意的に傳來の思想感情はその儘、無垢な心に、何等の疑問も撰擇も、批評も研究もなく無造作に植え

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

付けられ、そこに根を下した。社會の風習、常識、輿論などゝ稱する肥料は日夜に供給せられ、かくていつしか根ざし深き頑强な幹ある大樹となつた。

我々は初め其大樹を眞の我だと少しも疑はなかつた。その時我々は内外に何の敵も、壓迫も有たなかつた。

併し、眞の我はさういつまでも大樹の下に、僭王の脚下に安眠を貪つては居なかつた。斯くの如くして我々の内に、眞の我が、新しき生命が醒めたのは實は昨日今日のことではなかつた。

眞王は早く僭王の前に反旗を飜したのだ。

内なる新しき者は内なる舊き者に早くも反抗を試みてゐたのだつた。けれど新しきものの芽ぐまむとするとき舊きものは何等かの威嚴あるものの如き聲音もて「待てよ、待てよ」と常に叫んだ。偶々固き地盤を破つて萌え出た若芽も老木の影に其發育ははか〲しいものではなかつた。

是に於てか、我々は新しき者よと唱へるその同じ心に於て、

「敎へられし言葉そのままくりかへす鸚鵡となりて世にいきむやは」

と歌ふこともあつた。（穰子氏作）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

實にこれは惡戰であつた。しかも可成久しい惡戰であつた。

そして今や我々は內なる敵の征服者、勝利者として現れ出た。

私は今、我々は內なる敵に打勝つたと云つた。

內なる壓迫と久しく戰つた我々は今や新しき者として更に外なる壓迫を迎へねばならぬ運命に遭遇した。

外なる壓迫の到來は內なる壓迫に於ける我々の勝利の證明である。

とはいへ內なる壓迫の絕滅は容易のわざではない。被征服者は常に征服者の弱點を狙つてゐる。そして間隙さへ見出せばいつでも又頭を擡げやうと待ちかまへてゐる。

かゝる時に於ける外的壓迫は內訌を防ぐ外冦である。

しかも我々の眞に恐れるものは外なる壓迫にあらずして內部に潛む敵なることは云ふ迄もない。

然らば近頃我々の上に頻りに加へられる種々なる壓迫もこれを全體より見ればその結果は却て新しきものの成育上に慮外の幸を持ち來すものかも知れぬ。

且又我々の群の中に弱きもの、或は眞正なる內的生命と內的要求とに出でざるものある

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

場合、これを淘汰し、その自滅を速ならしめ、只強きもの、眞正なるもののみをして內外の壓迫を通じて益々其根ざし深き內的生命の力を發現せしめる上の一手段とならぬとも限らぬ。

斯くの如くして、それ自身何等の正當なる根據も、理由も、從つて價値も意義もなき是等の外的壓迫も間接に我々新しきものの勝利を證明し、且その發展を利するが故に、新らしきものによつて僅に新しき價値を附與された譯である。

我々が種々なる形をとつて現れ來る外的壓迫を只馬鹿々々しきものとして一笑に附し去らないのはこれあるが爲である。

先づ最初に現れたのは民衆の聲であつた。民衆の聲を大ならしめるに與つて力あつたものは確に新聞であつた。――新聞も又或意味で民衆ではあるが。

そのあまりに喧しきに當つて現れたのは政府であつた。

新しき者の上に注がれる民衆の冷罵と俗論の攻擊に眩惑せられ、何かは知らず、捨てゝも置かれまいと立つたものが政府である。其勢は寧ろ多とすべきであらう。

かくて無定見、無方針なる●●●民衆の聲に應ずるより外なかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ここに民衆と政府は新しき者の前に合同した。

民衆は權力者を得て新しき者に對するの力を增し、權力者の新らしき者に對する處置は民衆の意向によつて維持される。

政府は言論並に思想の自由を束縛せざる範圍内にて女子の思想並に言論を取締るといふことだつた。換言すれば、「新らしき女よ、眼を閉ぢよ、眠れよ、然らざれば默せ。されど思想言論の自由は重せざるべからざるが故に民衆と政府の意向を察し僞りを語ることのみを●●●●あるべし」といふことだつた。

やがて政府は我々に對し、奇怪にも風俗壞亂の名義のもとに頻繁に發賣禁止の命を下さむとするの意氣込を見せた。

かくして●●●●辨別力の皆無と、愚劣と狼狽とを我々の前に曝露して行く。

さりながら、これは誠に至當なことである。否、すでに、ありふれたる事柄である。舊きもの、保守的なるものの、新らしきもの、進歩的なるものを危險視し、世の風俗秩序を亂す惡魔の如く思ふは古今東西に絶えざる尤も千万な事である。

それでいいのである。それでこそいいのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

舊きものは世を亂す危險なるものよ、惡魔よとあらゆる迫害をもつて、新らしものを皷舞し、奬勵し、絶えざる刺戟と興奮とを與へつゝ、かくて自からは自滅して行くのだ。

（●●●●●●●●●●●、●●●●●●●●●●●●●●●●●●●）。

彼等は化石を抱いて熱を與へむと努力する徒である。

彼等古きものは、女德とさへ云へば永遠に一定不變のもののやうに思つてゐる。そして我々新らしき女も亦女德を創造せむと日々努力するものなることを知らない。

彼等古きものの言ふところは何等合理的な根據もない。批評的なものもない。只々固いばつかりだ。

「自國ほど偉い國はない。在來のものは皆善なるものである。しかも永久に生命あるものである。見よ、骨董品ほど光つてゐるぢやないか」。

彼等の茫漠たる意識に燻りついてゐる迷信は只これ丈である。

ところが民衆と政府の外になほ識者と稱する賢明の徒がある。

經世家、宗敎家、敎育家等所謂世の指導者を含んでゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼等のあるものは異口同音に型の如く云ふ。

「新舊の衝突は蓋し免れがたきところ。舊を以て新を律し、新を以て舊を律するは共に不可。よろしく兩者を調和すべし。善を取り、惡を捨て、長を以て短を補ふべき也」と。何と尤らしいことであらう。何と明快な、早分りのすることであらう。何と巧妙なことであらう。彼等はなほ附け加へて云ふ。

「物の長短、善惡を辨別、撰擇するには別段高遠なる理想、標準といふべきものを要せず(尤も彼等は高遠と云はずして多くの場合迂遠といふ)各自の常識によつて自から明なれば也」

と、何と容易なことであらう。

いつも〳〵賢きものは識者である。

自から考へる能力なく、反省なき大多數者が彼等を識者よ、指導者よと尊敬するに無理もない。

この點に於て我々新らしきものの發展に有害なるは苛酷に見ゆる權力者と無智なる民衆にあらずして寧ろ温和な、分別顔なる識者ではあるまいか。

識者は徹底と端的とを恐れてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼等は事物を根本的に考察しやうとしない。

だから彼等は二つのものさへあればいつでも調和が出來ると信じてゐる。それがいかほど根底に於て相背反するものでもそこまでは氣付かない。

兩者の區別を明にし、是を是とし、非を非とし、善を善とし、惡を惡とする正當な、合理的な根本的の價値の批評、判斷を下さうとは最初から努めもしない。

識者とは何でも分つてゐて、何一つ分らぬものだ。何でも知つてゐて、何一つ知らないものだ。併し彼等が只一つ知つてゐることがある。

「姑息と妥協とは唯一の方針である」と。

我々は舊きものと、新しきものとに兼ね仕へる識者よりも、新らしきものの發展の上に害あつて、益なきこの種の似而非なる人士よりも、眞向より新らしきものの上に迫害を加へ、かくして新らしきものを間接に刺戟し、興奮せしむる上に有益なる權力者と民衆の寧ろ野蠻なるが如きを愛する。

編輯室より

□五月の第一日曜日に茶話會を開きましたが事務所にお集り下すつたのは、內部の四人をのぞく他、多賀さんが一寸ゐらして下すつたのと岩野さんきりでした。これから一々おしらせ致しませんが毎週金曜日の他、毎月第一日曜日になるべく御都合の出來る方はゐらして下さいまし。

□四月二十六日附の福島の消印のある封書が二十八日に事務所に一通まひ込みました。宛名は事務所內岩野清、伊藤野枝他二名行としてありました。うらにはホワイトキャップ黨長代理としてあります。一番はじめに開けて見たのは小母さんです。私が行きますと小母さんはその手紙を出して大まじめでこんな手紙がまひ込んだから亂暴くらいやられるかもしれませんなんておどかしました。何が書いてあるかと思つてよんで見ますとこんな事なのです。

左ノ四名ニ告グ

汝等ハ偏狹ニシテ「ヒステリイ」的ナル思想ヲ以テ、社會ト戰ヒ、且ツ破壞セムトス……强者即チ男姓ニ依ツテ作ラレタル過去現在ヲ……汝等ノ言ハ常ニ婦人ノ權利ヲ要求シテ、義務ヲ提供セズ、是レ婦人若クハ小兒ノ通有性（性は消してあります）ナル「人間以下ノ人間」ヲ示スモノニシテ、如何ニ安酒ヲ飮ムニ於イテ贅ヲ盡スニ於テ、男姓ヲ凌ガムトスル虛カアルモ、確固タル卓見、思想ヲ無シト語ルノミ。汝等ノ望ムモノハ只、奇激ナル行動及ビ言文ニ依リテ社會ヨリ注目セラレタシト云フ虛榮（虛は誤字）ト岩野抱鳴ノ半獸主義等ヲ標傍シテ己レノ淫心ヲ充タサントスル心ノミナルベシ、汝等對社會ハ、蚤蚊對人間ニ等シク汝等ノ爲メニ受クル害ハ小ナリト雖モ害ハ害ナリ。

依テ汝等ヲ左ノ方法ニ依リ全部殺スベシ。

我黨ハ老人六名靑年十九名婦人七名、少女二名ノ全部三十四名ニテ成立ス、併シテ是等黨員ハ常ニ紳士ニ化シ田舍漢ニ化シ「オールドミスニ化シ」（以上括孤中の文字は墨に消してあります）令孃ニ化シ商人ニ化シ車夫ニ化シ學生ニ化シ其他アラユル人ニ化シテ、電力ニ依リ、痲醉劑ニ依リ腕力ニ依リ、短銃其他ニ依リテ必ズ殺害ヲ全フスベシ。

其期限明言シ難キモ、來ル五月一日ヨリ三ケ月間若クハソレ以上ニ涉ル事アルベシ。

從來ノ殺害目的者ニ對シテハ、殺害ノ豫告ノミヲシテ方法及ビ期日ヲセザリシ爲メ普通月並ナル脅迫狀位ニ思フテ覺悟（死ノ）モセズ、遺言モセズ、不意ニ

我黨ノ手ニ掛リ、卑怯ナル不敬ナル最後トナリシ者アリシニ付キカク明ラカニセリ。然ルガ故ニ汝等ハ此ノ狀ヲ見ミ次第死ヲ覺悟シテ生前ノ廣言ヲ愧ズル事勿レ。

此ノ狀ヲ警察（野察？）ニ提出スルモ可ナリ、我等ハ化學ニ基キ最新ノ方術ニ依ツテ行フ警察等云フ名譽心ニ驅ラレテ暗闘ヲ物トモセザル愚鈍者ノ群ヨリ我黨ガ數段レーベル高キヲ知レ、

外出ニ、電車汽車內ニ、往所ニ停車場ニ、旅行中ニ宿屋下宿屋ノ女中ニ番頭ニ、更ニ同宿セシモノニ注意スルモ可ナリ、注意セザル可モナリ、ソレ等ノ行動ガスベテ徒勞ニ了ルモノナレバナリ。

最後ニ、汝等各自ノ死ハ此ノ狀ヲ見シ瞬間ヨリ、今ヨリ!!!

4. 27. 1913.

靑鞜社中第一期ニ殺スベキモノ
岩野きよ　林　千歲
伊藤野枝　荒木いく

White Cap.
ホワイトキャップ
黨長代理

> 此處に暗示的の變な繪が書いてあります

此豫告ヲ近時流行セル（日本）ブラックハンドレタート同視スルモノアラバヨシ右ノ四人ノ中、何奴ニテモ（モツトモ始メニ）殺害セラレタルトキニ於イテ普通ノ脅迫狀ト見シ嘲ヒヲ解ケ。

我黨ノ本部ハ明言シガタシモ准黨員ハ九十一名全國ニ渉リテ散在セリ。

これでおしまひです。先づ奇拔な誤字に驚きました。警察なんぞは最もふるつてゐます。先づ その誤字に印をつけて數へて見ました、文字はきれいに 極めて細かくペンで書いてあります。中學あたりに通つてゐる坊ちやんのいたづらか、或は不良少年のいたづら位だらうと思ひました。とにかくおもしろいと手を叩いて笑つたのです。だが林さんを引きづり込んだ のはどうした譯だか 一寸見當がつきませんでした。靑鞜社中でも第一期に殺すべき者なんてありますから、らいてうとでもいふのかと思つたら 可笑しくてたまりませんでした。

五月一日からとりかゝろさうですが まだ私はかうして編輯室より を書いたりしてゐますから 御安神下さい。岩野さんも 荒木さんもぶじです。林さんもたぶん何事もないだらうと思ひます。若し私が編輯室へ 出なくなつたら ホワイトキャップの手に たをれたものと思つて可愛さうに思つて下さい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□だけども警察もずいぶんですね、ホワイトキャップの人たちは大ぜいの人を今まで手に掛けたやうに書いてあるではありませんか、そんな者に横行されては善良なる人間を一番苦しめるのではないでせうか。

□私がこう云ひますと、或る人が「ナアニ青鞜社の人たちはいま危險思想だの何だのつてその筋から白眼まれてゐるのだから却つてホワイトキャップの連中に手傳ひしてこの際撲滅しやうなんて云ひますかも知れませんね」と云ひました。

□らいてうの「圓窓より」が禁止になりました。私は何と云つていゝか分りません。何故にと云ふ事も分りません。當分は何にも云へません。私の感想もあぶなつかしくてとても書く氣になりません。私は自分の感想として書くものに彼是云はれるのが一番いやです、主張ならばとにかくですが、自分の感想の內容については、私自身にのみ絶對の權利があるのです。私は誰にも何にも云つてもらひ度くありません。

□こんな理屈を今更らしく云つた處で仕方がありませんが私はそれが一番いやなのです。全くこの頃は何にも云へません。それから先月號も大變つまらないと云はれましたが私共もつまらないと云ふ事はあくまで自覺して居ります。此處しばらくはやむを得ませんとつい弱さうな事も云はなければなりません。

□九月號には、皆うんと書くつもりでゐます。思ひ切つたものをおめにかける事が出來るかと思ひます。

□今しばらくの間は、お互ひに沈默して勉强するのが一番だと思ひます。皆樣にも出來得る丈け御勉强をおすゝめ致します。各自の內部の充實と云ふ事がすべての場合に於て最も望ましい事なのです。

□入社、伊藤智惠

□青鞜創刊號は方々から送つて下さいましたのでもう澤山です。(野枝)

編輯責任者　平塚明
校正責任者　小林歌津
伊藤野枝

五月號正誤

頁	行	誤	正
21	9	かはりで	ばかりで
28	2	嫌やな	嫌な
32	6	水は遇然	水は偶然
33	10	再ば	再び
36	4	靜か弄はれて	靜かに弄ばれて
36	12	眺みながら	眺めながら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りよ室輯編

頁	行	誤	正
37	3	指さし爲て	指さして
49	4	スクリニー	スクリユー
52	14	相供つて	相伴つて
54	6	石磐	石盤
56	12	考へなつた	考へなかつた
59	4	蝦？蝦？	蝦
59	13	彈けるやうなつて	彈けるやうになつて
64	6	沈點	沈默
65	3	怖れに	怖れて
66	4	映たのは	映つたのは
66	5	出來な	出來た
66	5	暗らく	暗く
66	6	暗らい	暗い
69	11	あつたかつ	あつたかも
70	5	消てえ行く	消えて行く
71	3	ふくらさした	ふつくらさした
75	9	居るてした	居るのでした
78	10	來せん	來ません
83	1	基督敎はんか	基督敎なんか
83	11	洗んで	沈んで
83	13	音せなく	音もなく
84	12	あてれば	あつれば
85	11	行なければ	行かなければ
96	56	調も	調さ
97	10	ンョパン	ショパン
98	11	狹露	狹霧
101	9	「シマイノルツンホニーー	「マイナル、シンホニーー
102	8	逝去(みか)れる	逝去(みまか)れる
108	13	耐え	耐へ
108	13	醜くく	醜く
113	15	ほか物思はしむる	ほかに物思はしむる
114	2	よかん	よからん
114	8	通ずて	通じて
115	15	さはいはん物の	さはいへ人物の
117	2	用意晉万端	用意万端
118	15	わが方わが見給ひぬ	わが方な見給ひぬ。
122	3	ちよいご	ちよいさ
124	6	たらない	たまらない
127	15	了つたんございます	了つたんでございます
130	1	榮ゆべきは命は	榮ゆべき命は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

附錄

頁	行	誤	正
1		戀愛と道德	戀愛と倫理
1	2	要永	要求
4	7	功獻	貢獻
10	10	社會安寧	社會の安寧
10	13	開發せらるに	開發せらるるに
25	10	取扱はれたる	取扱はれる
33	6	結び付らるる	結び付けらるる
33	9	人世の	人生の
36	6	待する	侍する
42	4	資するの昨	資するの時
目次		柴田かよ	深見よし

寄贈雜誌

三田文學　女子文壇　少女世界　早稻田文學
中央公論　新文林　劇と詩　白樺
近代思想　藝文　新眞婦人　くろれこ
みづゑ　シバキ　奇蹟　學燈
大國民　聖盃　六合雜誌　歌舞伎
層雲　新人　現代の洋書　新女界
智仁勇　新潮　報恩編毒語　心の花
政教論　イカリ　土佐圖書倶樂部
野の聲　スバル　紅潮　相對
天佑社報告　日本圖書新報　ひさみ　婦人世界
銀磬　新文林　朱欒　帝國文學

寄贈書籍

三人の處女（詩集）（定價六十五錢）　山村暮鳥　新聲社
ソオレイ氏著　晩近倫理思潮の傾向（定價六十錢）　千葉鑛藏譯　警醒社
チエホフ　櫻の園（劇曲）（定價六十錢）　瀨沼夏葉譯　新潮社
ふるへる花（歌集）（定價六十錢）　原田琴　岡村書店
涙痕（歌集）（定價五十錢）　原阿佐緒　東雲堂
新しき女の行くべき道（定價五十錢）　西川文子　木村駒子　宮崎光子　合著　洛陽堂
アンドレーフ作　七死刑囚物語（定價四十五錢）　相馬御風　海外文藝社出版
春かへる日に（歌集）　松村英一　十月會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

移轉廣告

從來の店舗手狹につき今般左記へ移轉仕候間此段謹告仕候也

大正二年五月十九日

東京市日本橋區檜物町九番地
（電車は通三丁目下車、松屋呉服店横町）

圖書出版 東雲堂書店

電話本局一八七一番
振替東京五六一四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行

■定價一册金貳拾五錢（郵稅壹錢五厘）

■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓

■社費は一ヶ月金參拾錢にして每月十五日迄に納附せられたし。取纏め納付せらるゝを便宜とす。

■廣告料（一頁）拾五圓　半頁（八圓）

■振替貯金口座は（東京五六一四東雲堂）に拂込まれたし。

■郵券代用は一錢切手に限る（但し一割增のこと）。

■編輯事務、寄贈圖書雜誌、及研究會に關する事務は靑鞜社へ。

■雜誌購讀、社費拂込、廣告申込、交換廣告其他販賣に關する一切の事務は東雲堂へ。

■原稿〆切期日は每月十日限とす。

大正二年五月二十八日印刷納本
大正二年六月一日發行

東京府下巢鴨町字巢鴨一一六三
靑鞜社內
編輯兼發行人　中野初

東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷人　佐藤保太郎

東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷所　文祥堂

禁轉載

編輯所　東京府下巢鴨町字巢鴨一一六三　靑鞜社

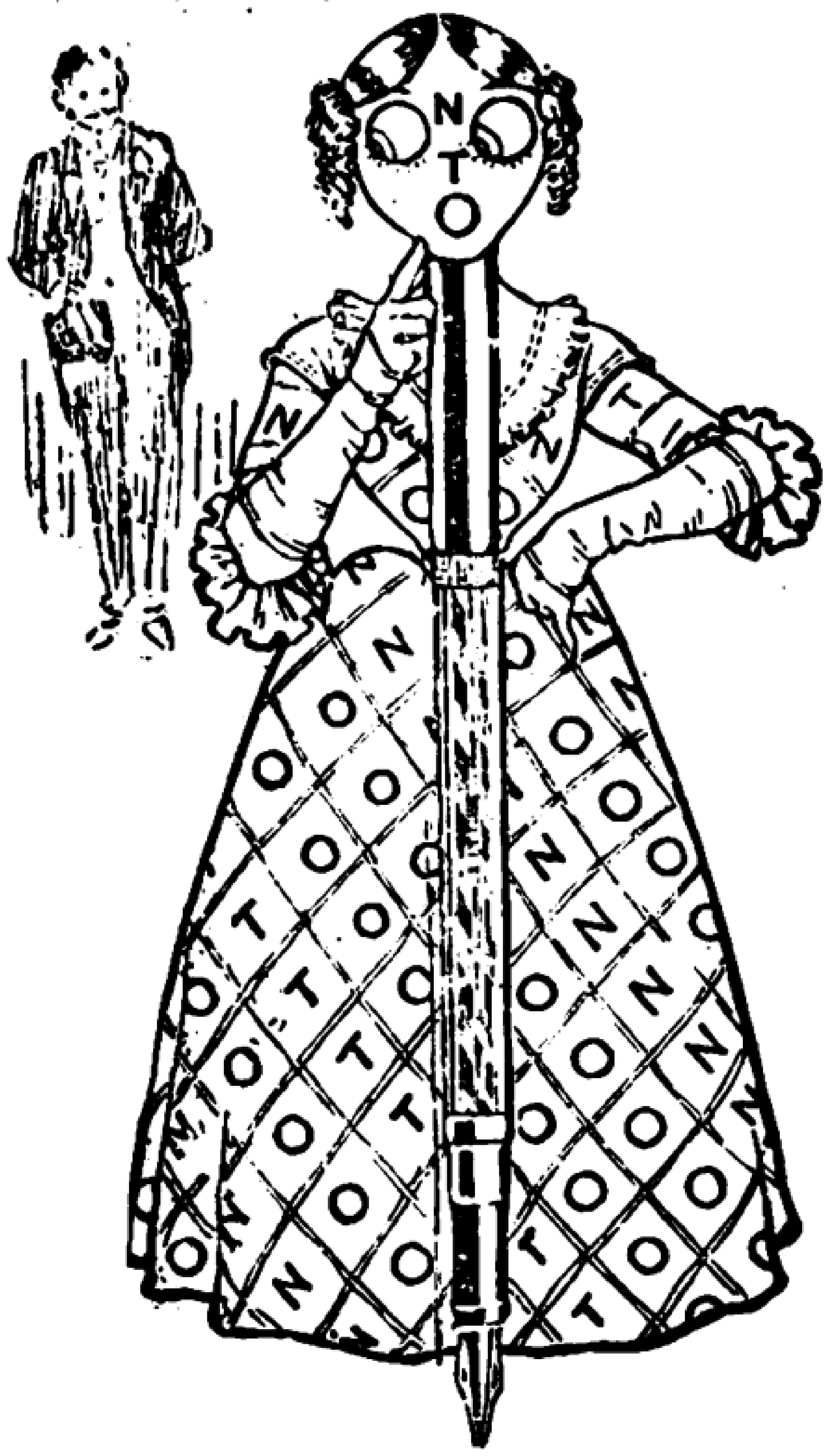
發賣所　東京市日本橋區檜物町九番地　東雲堂書店
電話本局一八七一番
振替東京五六一四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

家庭を新らしくせよ

――萬年筆を使用せよ――

主人の書齋ばかりが新らしきは一家の幸ひに非ず、却て往々不幸也。先づ婦人の身邊座右を新らしくせよ、硯箱を廢せよ、日記にも小遣帳にも手紙にも葉書にも請取にも萬年筆を用ひよ、新らしき氣分は萬年筆の金ペンより迸ばしる。簡單、敏活、清新、快潤は萬年筆の産物也。



各種萬年筆目錄は御申越次第即時進呈

オリオン萬年筆
金貳圓八拾錢
飾付金參圓廿五錢

オノト萬年筆
無飾金六圓以上各種
飾付金七圓以上各種

送料各金拾貳錢

類似品あり軸部のORION及ONOTOの名稱に注意せよ

丸善株式會社

東京市日本橋區通
(振替口座東京第五番)

大阪市東區博勞町
(振替口座大阪七四番)

京都市三條通麩屋町
(振替口座大阪一七三番)

青山霞邨先生著

東京神田小川町 振替一二三三六 敬文館 （電話本局四八五五）

■最新刊■

英國の靑鞜女ブロンテー女史

◉四六版函入上製　▲意匠斬新高雅　■定價金七十錢　送料内地金八錢　清朝三十錢

■『吾れはその法を守らう、神に與へられ人に批准せられたその法を………』と絶呼しながら、婦德を誘惑の毒焔の中から擁護した女丈夫、ブロンテー一代の哀史は、即ち本書なり。

■彼女の自叙傳にして、然かも十九世紀後の英國民をして、熱烈火の如き情思と、堅剛鐵の如き意志とを包みたる作品として吃驚せしめたる『ゼーンアイル』『ヴイレツト』との二大小説の眞髄は、即ち本書也。

■その性格に生涯に、我が樋口一葉女史を其の儘に偲ばせる女作家の傳記は本書なり。

■『新しき女』は、刻下に於ける大問題なり、之に解決を與ふるものは本書なり。

◉青年婦女子の理想的好讀み物!!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

六月一日發行

新しき女の裏面

■

白頭巾 樋口麗陽氏著

岡本一平氏裝幀及畫

□四六版洋裝頗美本
□本文三百廿餘頁

□定價金五十五錢
□送料金八錢

■

發行所

東京市淺草區福井町一ノ一
振替東京六一三三番
池村松陽堂

東京市淺草區下平右衛門町
振替東京一九〇六五番
岡村盛花堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らいてう著

六月十日製本出來

定價金九十錢

送費金八錢

扃ある窓にて

「圓窓より」改版發行

さきに著者「圓窓より」一卷を世に出すや、風俗を害するの故を以て不幸發賣頒布禁止の厄に逢ひぬ。今、そのうちより、忌避に觸れたる一篇「世の婦人達に」を割愛して、之れを世に出す。敢て自己の問題に思ひを潜むる世の婦人達の熟讀を望む。

東京日本橋區檜物町九番地　東雲堂書店　電話本局一八七一番　振替東京五六一四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

原稿用紙

■大判（藍色刷）二十字十行百枚綴　上

■大判（褐色の色紙へ墨刷）同　上

■小判（朱色刷）同　上

定價各一册十五錢　送費一册四錢

右三種紙質は最も精良なるものを撰み發賣いたし候間御愛用願上候

發賣所
東京日本橋區檜物町九
東雲堂書店
電話本局一八一七
振替東京五六一四

近刊二種

上田敏　北原白秋　澤村胡夷
薄田泣菫　三木露風
蒲原有明　河井酔茗
六氏合著

斑鳩詩社第一集
『マンダラ』

富本憲吉氏装幀
六月下旬發行
菊判百五十頁
定價郵税未定

アララギ同人歌集
『馬鈴薯の花』

柿の村人
中村憲吉
合著

平福百穗氏装幀
六月下旬發行
四六判二百五十頁
定價郵税未定

東京檜物町九番地　日本橋區
東雲堂書店
電話本局一八一七番　振替東京五六一四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

石井柏亭氏著

（新裝發賣）

歐洲美術遍路

上卷

四六判三百八十頁
函入頗美裝
定價金貳圓
小包料十二錢

外遊二箇年、足跡殆んど歐洲各國に及びたる著者の紀行、評論、見聞の全部を收む。歐洲美術の新鳥瞰圖!!!

題目

エムエム船中●入埃及記●ナイルの上流●カイロー博物館一瞥●君府の雪●南歐の春●羅馬より●萬國美術博物館●アッシシより●ペルーヂアより●トスカーナ●トリノ雜觀●巴里小品●セイヌ、エ、マルヌ●續巴里小品●アンデパンダンのサロンとファン、ドンゲンの諸作●サロン、ドートンヌを觀る●巴里の水彩畫展覽會

挿畫

■泰西新古美術品寫眞版……………三十三枚
■著者水彩畫、素描畫寫眞版……………三十枚

塔のいろ〳〵、カイローの宿のとなりの小さな塔、スタンブールの丘を飾る鎗のやうな尖塔(ミナレ)の數、ペルーヂヤの宿から見た、月夜の青い空に立つサン・ドメニコの角な塔と、サン・ピエトロの尖つた塔、シエーナの廣場に立つマンヂアの塔、フロレンスはヂオツトの塔、サン・ヂミニヤーノの"Belle Torri"さてはまたグロテスクな石の變化が上に居て巴里を瞰下す、ノートルダムの塔のいろ〳〵。

發行所　日本橋區檜物町九番地　振替貯金東京五六一四番　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社編　小笠原さだ装幀（自書自刻）

青鞜小說集

四六判三百五十頁
頗美本
定價金八十錢
送費六錢

新刊發賣

執筆者

野上彌生　岩野清
小笠原さだ　岡田八千代
水野仙　神崎恒
小金井きみ　神近市
荒木郁　森しげ
尾島菊　林千歳
加藤籌　茅野雅
人見直　藤岡一枝
加藤綠　木内錠

小說十八篇

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

北原白秋著及畫

本文黑と草との二度刷
「朱欒」形、紺と金、紙表紙
定價金壹圓 送費八錢

東京景物詩及其他

「邪宗門」以後
第一の詩集
六月中旬出版

内容章目

公園の薄暮 S組合の白痴
青い髯 おかる勘平
柳の左和利 銀座の雨

發行所 日本橋區檜物町九番地 振替貯金東京五六一四番 東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

故 石川啄木著

（新装發賣）

詩と感想

啄木遺稿

四六版四百頁美本
總洋布製著者小肖入
定價金九十錢
送費 八 錢

年二十、すでに詩集「あこがれ」一卷を以てその鬼才を稱へられ、のち「一握の砂」「悲しき玩具」の二歌集を出して僅かにその片鱗を示し、二十七歳にして早くも世を去れる故人の變化多き生涯は知る人をして大なる暗示と、深き瞑想に入らしむ、然もその内生活に至りては未だこれを知るもの甚だ罕なり。今故人の遺稿より、「あこがれ」以後の詩作と感想とを整理して、これを公にす、蓋し、本書によりて始めて故人の思想生活及人生批評家としての抱負の一端に觸るゝを得んか。「人」として啄木を知る好個の資料たるなり。

■石川啄木略傳……文學士 金田一京助

■跋……土岐哀果

■ 東京市日本橋檜物町九番地 東雲堂書店 電話本局一八七一番 振替東京五六一四番 ■

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

故
石川啄木著
籔野椋十氏序
土岐哀果氏跋

四六判三百五十頁
著者自筆歌挿入
函入美本
定價八十錢　郵稅八錢

啄木歌集
新刊

著者の第一歌集「一握の砂」久しく絶版となりて江湖の渴望に背くこと久し。今「悲しき玩具」と併せて啄木歌集と名づけ世に出す。蓋し數多からぬ著者の歌のすべてを網羅せるものなり。懷かしき著者の姿見なり。

發行所　東京日本橋區檜物町九番地　振替東京五一六一四　東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岡稻里氏著　橋口五葉氏裝幀

歌集 早春

木版刷表紙美本
四六版二百三十頁函入
著者小肖挿入
定價金七十錢
送費金八錢

山美はしく水清き郷土にありて、日夕靜かなる自然と相對し、自然の氣息に觸れて歌ひ出でたるもの、これ玉の如く曇なき著者の歌也。若き春のおとづれ、豪宕なる夏の讃歌、逝く秋のほがらかなる足音、しろがねの壺の底にあるが如く降りつもる雪、これらみな著者の好んで歌へる風物也、都會の喧囂なる中に生るゝ頽廢の藝術と相俟つて、著者の抱ける藝術境の如き素純なるもの、又吾等に一味の歡喜を齎らすを信じて疑はず。敢て現今の歌壇に本集を薦む。

發行所　日本橋區檜物町九番地　振替貯金東京五六一四番　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

與謝野晶子女史序
吉井勇氏序歌

原阿佐緒著
西野義雄裝幀

小形頗美本
著者小肖挿入
本文二百數十頁
歌四百首
定價六十錢

歌集
涙痕

新裝發賣

—內容—

戀と死
涙痕
孔雀艸
悲しき母と子
あきらめ

この涙つひにわが身を沈むべき
海とならむを思ひぬはじめ

發行所 東京市日本橋區檜物町
（振替東京五六一四）
東雲堂

新佛教徒同志會編

來世之有無

▲名士筆跡三十葉を挿む

三六版上製
定價七十錢
郵稅八錢

吾等の死後はどうなるか地獄があるか極樂があるか抑々又吾等の靈魂は滅するのか滅しないのか元來吾等に靈魂などゝいふものが有るのか無いのか凡そ此くの如きの難問題に關し現代各方面の名士二百數十人の解答を得てこれを滿載したのが本書である古來の大疑團も本書一たび出づるに及んで忽ち雲散霧消するであらう

文學士 平田元吉先生譯

死後の生活

定價五十錢
郵稅八錢

文學博士 松本文三郎先生著

彌勒淨土論

定價一圓
郵稅八錢

振替東京一五六八六 東京小石川區原町六 丙午出版社
振替東京一三五三 東京小石川原町六 鴻聲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

＝現代小品叢書第二篇＝

正宗白鳥先生著

青蛙

菊版半截版
裝幀頗る優美
紙數三百餘頁
正價金三十五錢
郵稅金六錢

白鳥氏の藝術に就ては世既に定評あり、敢て玆に贅せず。本書收むるところ、小品と云ふと雖も、皆是れ箇々の獨立したる短篇にして、何れも氏が苦心の餘に成りたるもの。試みに其の内容を擧ぐれば、青蛙、途上、砂丘、旅人等總て良く熟したる果實の如き優秀なる作品ならざるはなし。併せて白鳥氏最近の傾向を窺ふに足る。

▲現代小品叢書の特色▲
タツタ雜誌一冊代で買へるやうな安い本で、裝幀が美麗で、紙がよくて、而も非常に内容の充實して居る事。

新刊發賣

賣捌所は全國各地の書籍店

第一篇

田山花袋氏著『椿』は破天荒の賣れ行きを示しつゝあり。初版は發行後日ならずして賣切れとなり、再版今や將に飛ぶが如くにして盡きんとす。續々愛讀を賜へ。

發行所 東京神田今川小路 忠誠堂 振替東京二〇四三一 電話本局四九六六

斯道唯一の演劇雑誌

歌舞伎

百五十六號(六月一日發行)

毎月一回一日發行
一冊 金貳拾五錢
郵税 金一錢五厘

六冊前金郵税共
金壹圓五拾錢
◎十二冊金貳圓八拾錢

戲曲「ギヨッツ」(ギヨオテ)……鷗外譯

飜譯劇と創作劇……中村春雨
最近のロシア劇壇……松本苦味
歌劇「魔笛」の上場に就て……小林愛雄
默阿彌著作解題……河竹繁俊
「阿部一族」内幕咄……山崎紫紅
「切支丹屋敷」に就て……岡本綺堂
死せる探偵實話の作者……伊原青々園
伯林より(小山内薫、生田葵山)

新き劇壇の論議……島村抱月

「二月堂」の狂女……尾上梅幸
私の父と「乳貰ひ」……實川延二郎
帝國劇場を看て……立花靜子
復活せる三崎座の女優劇……山の手の女
吾聲會の「鴫」……芹影女
「切支丹屋敷」を觀る爲に……森ほのほ
活動寫眞化せる文藝品……吉山旭光
大小芝居の評(青々園、春浦)

文樂の鮨屋……松井須磨子

本郷坂町
湯島書報
切通社内

歌舞伎發行所

電話下谷八一〇
振替口座一八一六
四二三番
二一三八番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第四卷第六號

俳味

每月一回一日發行

六月號要目

作句極意……………（卷頭語）
山座雲走…………沼波瓊音
比丘尼壽貞…………大野洒竹
黄色い顔は黄色いのだ（巴里より）小杉未醒
俳句將來の變化…………内藤鳴雪
眠れる小鴨…………川島風骨
一茶句碑及一茶記念堂建設地　東松露香
俳眼より見たる土佐日記…麻衣生
食…………長尾素枝
俳句渡し守…………拂拭子
郢曲五章…………幻化法師
繪本小倉百句　五代目…市川團十郎
俳譯百人一首。俳句……諸氏
失意、落花、蛙……（懸賞句文發表）
地方俳壇、俳交欄、新刊紹介等
一茶句碑及記念堂建設地（口繪）
缺けた鏡（裏繪）…………瓊音戲畫

定價　一部廿錢 郵稅壹錢　半年分稅共 金壹圓　一年分稅共 金貳圓

發行所　東京本郷西片町十番地　振替東京三四三四番　俳味社

自由講座會員募集

——（（六月よりの講義題目と擔任講師氏名））——

○我等は近代文藝を自由に且眞面目に研究す
○研究範圍は小說戲曲詩哲學繪畫建築音樂等
○講義は每週二回午後五時より三時間
○男女を問はず會員たる事を得會費每月壹圓

第一科（五時半より六時十五分まで）

□メレディスの小說 The Tale of Chloe.（用書講義）平田禿木氏
□トルストイの小說 Where Love is, God is.（同）鈴木三重吉氏
□オイケンの自然主義か理想主義か（同）安倍能成氏

第二科（六時半より七時十五分まで）

□古希臘文明史…………千葉鑛藏氏
□同古戲曲…………同
□同アリストオトルの詩學同
□フロオベル論…………生田長江氏
□バアナード・ショオの「カンデイダ」平田禿木氏
□泰西名家著作梗概…………千葉鑛藏氏
□ショオの「戀愛觀」…………野上臼川氏
□サラムボオ論…………生田長江氏
□支那小說講話…………千葉鑛藏氏

第三科（七時半より八時十五分まで）

□私の人生觀…………田中王堂氏
□繪畫論…………木下杢太郎氏
□近代思想より見たるレオナルド・ダア・ヴインチとミケル・アンゼロ　中澤臨川氏
□ベルグソンの『笑の哲學』千葉鑛藏氏
□醫學上より見たる色情狂の研究……

○規則書は參錢郵劵封入事務所へ紹介を乞ふ
○開講日には五時より會場にて直に入會し得
○會場　本郷區弓町一丁目　本郷敎會
○事務所　淺草區三間町八　村上靜人方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第四巻
音樂
六月一日發行
第六號

■樂壇時評……同人
□寄言一束……梅　醫學博士
■敎壇上の女子を論ず……三谷樣二
□音樂敎授法沿革史……草川宣雄
■歌劇に仕組まれたる文豪の作物……柴田知常
□ヨハンネス●ブラームス……弘田龍太郎
■ロッシーニ……佐久間孝夫
□ケルビーニ……牛山充
■鳥の抜毛（詩）……尾山篤三郎

口繪
■ケルビーニ
□シーラ●ブレーシンガーの扮せるイゾールデ
■アントン●フオン●ロイの扮せるヴータブ
□ヨハンネス・ビシヨッツの扮せるブリーゲンデル・ホルレンダー
■マダーム●ノルデイカの扮せるブリユンヒルデ

□うら若き漂浪人（詩）……内海泡沫
■Duett（詩）……柳澤健
□むかしべ（詩）……林古溪
■春季修學旅行記……ＴＳ生
□白光……幽栗子
■海内樂壇……海内樂壇子
□海外樂壇……海外樂壇子
■作曲法入門（續稿）……
□音階の話……田邊尙雄

■一、會友募集
半ヶ年會費壹圓參拾錢以上前納者は會友となり本會所催の演奏會に參聽する事を得。
六月一日本會春季演奏會を開く。
會友は六月七日所催の東京音樂學校演奏會にも入場の便宜を得べし。

■發行所
東京音樂學校學友會
振替東京二〇六二番
■發賣所
神田表神保町、東京堂

■定價一部廿五錢
郵税一部　壹錢五厘
半ヶ年（前金郵税共）金壹圓三十錢
一ヶ年（前金郵税共）金二圓五十錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回
一日發行

フュウザン

一部廿錢
郵稅二錢

六月號

挿繪

ストリンドベルヒの肖像(寫眞版)……………………エドヴアルド・ムンク
露西亞の學生シュミット(同)…………………………………………………
久世山 (同)…………………………木村莊八
S君の肖像 (同)…………………………岸田劉生

記事

痴人の懺悔…ストリンドベルヒ(3)…………………………木村莊太
手紙一通と感想……………………………………………………千家元麿
べらぼうな戀(小說)……………………………………………堀　小輔
顫動(感想)…………………………………………………………木村莊太
收獲(同)…………………………………………………………木村莊八
ドストエフスキーの手記(飜譯)…………………………………莊八生
反逆(ジヤン・クリストフ)…ロマンロラン(3)…………………………
………………………………………………………………………高村光太郎
消息…………………………………………………………………………

發行所 東京市牛込區水道町 振替口座四二七三 日本洋書協會出版部

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

純詩歌雜誌

詩歌

六月號

第六號
第三年

郵税一錢五厘
定價二十五錢

□女の顔（詩）……蒲原有明
□詩二篇（詩）……三木露風
□人類の泉（詩）……高村光太郎
□紫朝（歌）……吉井勇
□詩歌と音樂と舞踊（評論）……厨川白村
□鳴らぬ笛（詩）……加藤介春
□造り花（詩）……山村暮鳥
□夜（カルドツチ）……川路柳虹
□行く春の道頓堀（歌）……水島爾保布
□花瓣の冷さ（詩）……水野葉舟
□亡靈（イプセン）……高橋泰譯
□憂鬱錄（詩）……尾山篤二郎
□兒の匂ひ（歌）……山田邦子
□病みたる女と若葉（詩）……小野深雪
□青草の丘より（歌）……田村飛鳥
□通草の花（歌）……熊谷武雄
□五月の夜（歌）……狹山信乃
□窓にむかひて（感想）……前田夕暮
□三人の處女を讀む（感想）……三木露風
□野の監獄（歌）……前田夕暮
□短歌　佐藤嘲花、小野健次、村田光烈、中山雅吉
平島輿志美、佐々木順、小合清子、瀧澤露

發行所　東京市外西大久保　白日社

社友募集
白日社詳規往復葉書にて申込まれたし。

發賣所　東京神田表神保町　東京堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■モザイク■

六月發行第拾四號內容

レ・ニウアンス・フユイヤント（小說・五十頁）　武林無想庵

果樹園（小說・バザン）　藤井伯民譯

俺は信ずる（小說・ツエンスキイ）　米川正夫譯

酒（小說）　西田長左衛門

天の橋立（小說）　水島爾保布

サニン（小說・アルツイバシエフ・六十頁）　武林無想庵譯

壹冊金參拾錢郵稅一錢五厘・六冊壹圓八十錢

東京市下谷區　モザイク社　中根岸町六九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文藝雜誌 くろねこ

第二卷 第七號

□シロアムの池（喜劇一幕） 杉山銑

□旅 續編（小說） 中川章三

□夏の心（短歌） 宇良野丁二

□女三ごき（小說） 眞鳥

□嫦（ラリデ）曳（ヴフ）（長詩） 繪岸椎丸

□たけ坊の手記（隨筆） 柳澤健

◉五月狂言評判記

帝國劇場……金ぼうげ

新富座……山の手二人男

明治座……蝶花形

宮戸座……湯島の人

□あごけなき頃（自敍傳） 尾上菊五郎

□宦官の死（小說） 倉田啓明

□箱根（小說） 梧桐秋夫

□白馬（戲曲四幕） ヘンリックイブセン

○若衆歌舞伎（表紙畫） 鏑木清方

定價金二十五錢 郵稅一錢五厘

編輯及發行所 本郷區切通坂町二十五番地 黑猫社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第十二卷 ✽ 第八號

毎月一回
一日發行

美術新報

價參拾錢
郵壹錢五

✽ 六月一日行 ✽

記事

(時言)帝室の藝術御奨勵に就て　森田龜之輔
セベリン・クレエル　高安月郊
大雅堂其人　兒島虎次郎
滯歐畫談　大隅爲三
ミリナ人形　小杉未醒
扁忘數則

繪畫

ボヘミヤン(原色版)　デルパン筆
習作肖像(原色版)　クレエル筆
髮(網目版)　アマン・ジヤン筆
赤壁の圖(アートタイプ)　大雅堂筆
ミリナ人形(アートタイプ)

要目

洋畫に於ける非自然主義的傾向　木下杢太郎
ルーズベルト氏の後期印象派評
宗達展覽會を見て　坂井犀水
晩春の諸展覽會　雪堂生
時報等……………………

發行所　東京本郷湯島切通　畫報社　電話下谷二四八三番　振替一八一〇六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心の花

第十七年　六月號　第六號

○元祿前後の淺草名物	關根正直
○戸田茂睡翁建碑に就て	坂谷芳郎
○戸田茂睡翁を祭る文	佐々木信綱
□靜かな村（ヘッセ）	出野青煙
□團重左（モリエール）	草野柴二
□和解（リルケ）	呉野潮音
○けるかな流のけるかな	鴻巣盛廣
○今井似閑と梁塵秘抄	上田萬年
○「ふるへる花」と「涙痕」	新井洸
□大宮の一日（野遊會記事）	竹柏會同人
□曙會記事	澤弌
□夢	小花清泉
○短歌百首	小柳清
○短歌百首	松本初子
○短歌百首	石川靜子

定價一部金貳拾錢・半年前金壹圓・一年前金貳圓

東京日本橋區本石町一ノ一　竹柏會出版部

電話本局五一七〇番　振替口座東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

GENDAI NO YOGWA

現代の洋畫

第十五號

六月號

本號定價三十錢——送料一錢半

原色版挿畫……五枚
アンデルス・ツォルン〇ピサロ〇ホフマン〇正宗得三郎〇牧野虎雄

寫眞版挿畫……十數枚
ピサロ〇ゴーホ〇コーガン〇ツォルンロートレク〇ブーヴエローの各大寫眞大平洋畫會展覽會の出品畫數點

記事……數篇
ピサロの藝術〇佛國大家ウイリアム・ブーヴエロー〇ホオフマンに就て〇ド・ロートレツク〇ツォルン〇偶感錄〇現代の洋畫座談〇女繪——浮世繪の由來〇木版法〇其他數篇

發行日……一日
發行日は何時も不確實ながら本號は五日迄に發行仕り候

本誌既刊見本十五錢——送料一錢半

東京市牛込區水道町五三　日本洋畫協會　振替口座四三七三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ほとゝぎす

本誌は近來二個の特異の注意を以て編輯しつゝあり。其一は卷頭に置く小說は現代第一流大家の代表的作品を以てする事也。其二は一般文學より見たる俳句の眞價値を明にして迷へる今の俳句界を最も正しき道に導かんとする事也。前者に於ては三重吉の「鷄」、秋聲の「南國」、花袋の「椿の花」等を連載し來り、後者に於ては虛子殆ど全力を之に傾倒せり。二百號以下連載して九月號に至りて完結すべき「六ケ月間俳句講義」は特に初學者の爲めに通俗平明を旨とせり。

六月號（二百一號）要目　定價金二十錢

銀座の夜（小說四十頁）　小宮豐隆

評論壇の花形にして「烙印」一篇忽ち創作壇の高地步を確保せる著者が苦心の作。心理描寫の深刻と情熱の句高きとは比類無し。

二葉亭主人の俳句の草稿見る　高濱虛子

二葉亭主人に斯る隱れたる努力あり、俳句あり、連句註釋あり。

新傾向句雜感　高濱虛子

六ケ月間俳句講義　高濱虛子

臨時增刊（二百二號）　六月十五日發行

鏡花の小說一篇、虛子の「六ケ月間俳句講義、第三回」等の外に六月下旬開催の文藝家招待能樂につき數十頁を費し委曲の事を報導す。

二百號再版　定價金二十錢

花袋の小說「椿の花」、虛子の「六ケ月間俳句講義、第一回」等を揭載せる二百號再版せり

東京牛込區船河原町十二　（振替貯金二二五〇）　ほとゝぎす發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

純文藝雜誌

詩と劇

毎月一回 一日發行

ホフマンスタール論（飜譯） 仲木貞一
心の希望の國（飜譯） 松田良四郎
平和祭（飜譯） 秦豐吉
寫實主義と俳優（飜譯） 村田實
彼の夜の興奮（詩） 人見東明
燕と枝無柳（詩） 福田夕咲

新様式の演劇と婦人問題 島村抱月
ロシヤ文學に現れし高等遊民 昇曙夢
英國に於ける近代劇 長谷川天溪

毒藥の壺（感想） 相馬御風
女優と舞臺監督（戲曲） 國枝史郎
仕合者（小說） 小杉寛
別るゝ日（小說） 右田青歌
あいいろの夏（歌） 土岐哀果
哀傷の歌（歌） 天野謙次郎

（繪畫） 岸田劉生 眞田久吉 松村巽 村田實 岸田辰彌

第四年第六號
六月號
定價金廿八錢

（短歌） 大熊信行 南くに子 小柳江村 高鹽背山 佐藤小百合

發行所 東京市小石川區雜司谷町百十四 詩と劇社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東西今古藝術之評論

藝術

六月號要目

■ニユルンベルグと其の藝術…（挿畫三葉）……石井柏亭

■街路動勢論……高村光太郎

■立方體派の理論…（挿畫二葉）（メッチンガーグレーズ）……田中喜作

■オーガスタス・ジヨーン……仲田勝之助

■葵氏艶譜…（挿畫二葉）……高木長葉

■ラスキンの叫び……矢代幸雄

■ロツソオの紹介……木下杢太郎

■時評…（挿畫二葉）……古徑・長葉 柏亭・杢太郎

■海外消息……田中喜作 石井柏亭

■海內消息・前月論壇・新刊批評……

■ベンベヌート・チエリーニ自傳……荻原直正

定價一部三十錢稅二錢一部六圓七十錢

藝術社

東京小石川區白山御殿町一一三

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊美術雜誌

みづゑ

六月三日發兊

第百號

送料共五拾錢

挿畫（原色版）

■グレーの秋　故淺井忠
■草花　丸山晚霞
■漁村　石井柏亭
■大阪日本橋　石川欽一郎
■アルックヒル　中川八郎
■噴水の池　南薫三
■ターナー筆模寫　白瀧幾之助
■蜜柑の木　故大下藤次郎
■暗き水　同
■夏の水　赤城泰舒
■眞夏の草（表紙畫）　南薫造
其他寫眞版十數葉

本號執筆者（イロハ順）

磯萍水　藤田紫舟
石川欽一郎　後藤工志
石井柏亭　赤阪泰舒
戸張弧雁　坂本繁次郎
織田一磨　佐竹草迷宮
田澤操子　山宮允
鵜澤四丁　南薫造
山崎紫紅　水野以文
矢代幸雄　比奈地畔川

本號は百號の紀念として特に倍號とし原色版十葉を挿入す

本號には第一回日本水彩畫會展覽會入場券を添付す

發行所　東京小石川關口駒井町三番　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

スバル

第五年第六號

賣價參拾錢
郵税貳錢

六月要目

愛の國（詩） 茅野蕭々
受付室（小説） 北尾夕街
歌 柏木松雄
青い鳥（戯曲） 齋藤寅一譯
ためいき（詩） 佐藤春夫
色の匂（小品） 竹友藻風
受胎（詩） 出野青煙
遊蕩兒の譯者に（感想） 佐藤春夫
歌 和貝彦太
巴里より K Y生
歌 原あきを
小説 森鷗外
むく鳥通信 無名氏
巡禮（詩） 竹友藻風
乞食の夫婦（小説） 江馬修
詩 長田秀雄

東京市神田區北神保町二番地
昂發行所
電話本局四二六四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東雲堂藏版書目

歌集	桐の花	北原白秋	定價金壹圓
歌集	水莊記	吉井勇	定價金壹圓
歌集	別離	若山牧水	定價金七十錢
歌集	死か藝術か	若山牧水	定價金七十錢
歌集	黃昏に	土岐哀果	定價金五十錢
歌集	收穫	前田夕暮	定價金七十錢
歌集	啄木歌集	石川啄木	定價金八十錢
歌集	早春	岡稻里	定價金七十錢
歌集	かろきねたみ	岡本かの	定價金二十五錢
英詩集	The Pilgrimage.	野口米次郎	定價金壹圓
詩集	思ひ出	北原白秋	定價金九十錢
詩集	邪宗門	北原白秋	定價金八十五錢
詩集	東京景物詩	北原白秋	定價金壹圓
詩集	白き手の獵人	三木露風	定價金壹圓
詩集	霧	河井醉茗	定價金五十五錢
詩集	路傍の花	川路柳虹	定價金五十錢
詩集	夜の葉	森川葵村	定價金六十錢
小說	青鞜小說集	青鞜社	定價金八十錢
小說	新譯梅ごよみ	[illegible]谷爲蝶	定價金五十錢
戯曲集	午後三時	吉井勇	定價金壹圓
戯曲集	和泉屋染物店	木下杢太郎	定價金壹圓
論集	演劇新聲	小山内薰	定價金八十錢
評傳	哲人カアペンター	石川三四郎	定價金八十錢
隨筆	扃ある窓にて	らいてう	定價金九十錢
隨筆	啄木遺稿	石川啄木	定價金九十錢
隨筆	歐洲美術遍路	石井柏亭	定價金貳圓

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岡本かの子著（青鞜叢書のうち）

新刊發賣

小形美本
全部日本紙
木版手刷
插畫一葉
定價貳拾五錢
送費二錢

插畫 和田英作氏
裝幀及裏書 岡本一平氏
彫刻者 吉田悦太郎氏

この歌双紙は年四回刊行する全部木版刷の、純日本式裝幀に成る歌集で、本篇は女史の新作七十首を收めてある。「女なればか」「かろきねたみ」「袷の襟」「暗の手ざわり」「舊作のうちより」「いばらの芽」「むなおしろい」「淡黄の糸」「ひるの湯の底」「水のこゝろ」の十章。かろくやさしく、なつかしき女史の氣持ちは、頃合ひの年數を經た櫻の板につゝましく彫られて、稍々ににじみ勝に刷り出された薄墨の色に、その情緒の顫へを窺ふことが出來る。

發行所 日本橋區檜物町九番地 振替貯金東京五六一四番 東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和44年4月15日発行　【第4回配本】

青　鞜　第　3　巻　6月号

編　著　者　平塚　らいてう
発　行　者　藤　原　正　人
発　行　所　(株)明治文献
印　　　刷　江　明　印　刷
製　　　本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価　3,800円

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.3
no.6

50 126CO 108
XL
04/09 30016-160 UR
HFGroup

University of Colorado at Boulder
U18304 6746301

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新音譜賣出し

蓄音機が娛樂品たりし時代は既に過去に屬せり多年弊店にて製造せる精巧無比なる八種の器械と肉聲を永く凌がんとする三千餘種の音譜とは家庭に於て學校に於て進んでは廣く社會のあらゆる階級に於て殆ど必要品として其需要日に増加しつゝあり

括目して見られよ今月賣出し左記の新音譜を

（一）歌劇家としての原のぶ子女史の妙音絶調聞く者をして覺えず血沸き肉躍るの感あらしむ

（二）前古來曾有なる調和歌此れ實に澤田澤山遠藤の三名が苦心慘膽巧みに和洋の音樂を調和せし者

（三）次は納所文子嬢獨得の聲調文部省發行の新唱歌五種兒童諸君が喝采の聲山野に滿つる日蓋し近きにあるべし

唱歌（ピアノ入）

番號	印	曲名
一九四〇・一九四一	赤鷲印 兩面盤	日の丸の旗、鳩、おきあがりこぼし／人形、ひよこ、かたつむり
一九四三・一九四二	同 同	牛若丸、夕立、池の鯉／桃太郎、菊の花、犬
一九四四・一九四五	同 同	木の葉、鬼、花咲爺、／軍艦マーチ
二三〇九・二三一〇	鷲印 兩面盤	埴生の宿／故郷の廢家

調和歌

番號	印	曲名
二三一三・二三一四	同 同	梅にも春（ピアノ、ヴアイオリン、フリユート）／春雨

納所文子　同 辨次郎　同 同　同 同　同 同　同 同　同 同　同 同　同 同　同 同　同 同　同 同　原のぶ子　澤田柳吉　同　同　澤田柳吉　横山國太郎　遠藤和一

（赤鷲印兩面盤金貳圓　鷲印兩面盤金壹圓五拾錢）

全國に四拾の支店と四百の特約店あり

東京市京橋區銀座一丁目

株式會社 日本蓄音器商會本店

長電話京橋 二五八番 二五七番

ASN
PL
756
W6
S45
v.3
no.1-6
1913

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

PASCAL
Dep P Mod 2 Ran 04 Sect 11 Shelf 21 Tray 09 Item 011

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER